

第2章

介護予防・日常生活支援ニーズ調査

（一般高齢者調査結果）

第2章 一般高齢者調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

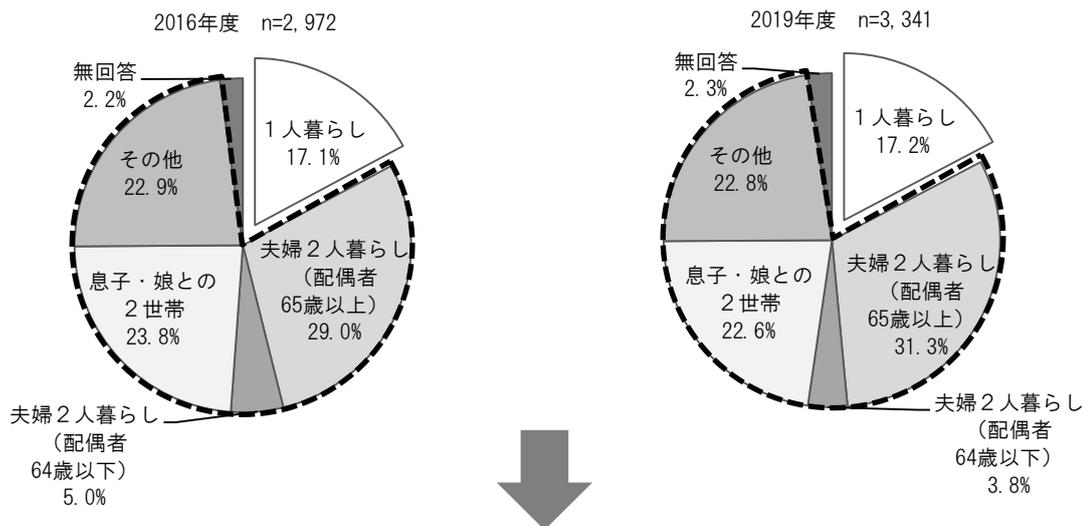
○家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（31.3%）が最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」（22.6%）、「その他」（22.8%）、「1人暮らし」（17.2%）となっています。

○前回調査と比較すると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」は2.3ポイント、「1人暮らし」では0.1ポイント高く、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」「息子・娘との2世帯」では各1.2ポイント低くなっています。

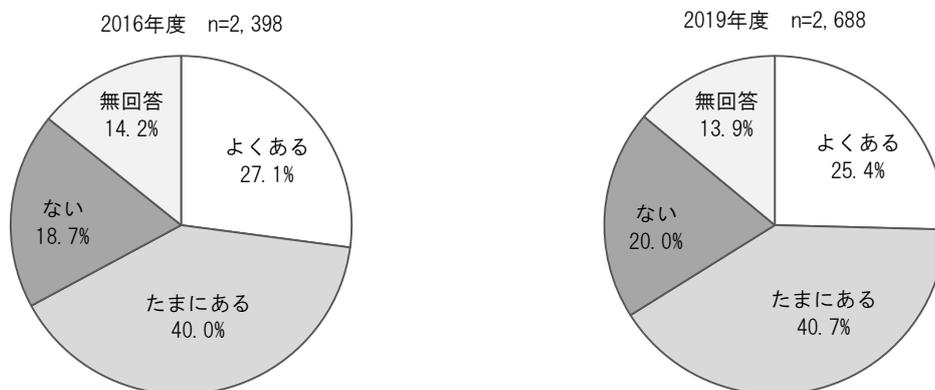
○日中に1人になることの有無は、「たまにある」（40.7%）が最も高く、「よくある」（25.4%）を合わせた6割以上が、日中に1人になることがあると回答しています。

○前回調査と比較すると、日中に1人になることがある方は1.0ポイント低くなっています。

問1-(1) 家族構成（経年比較）



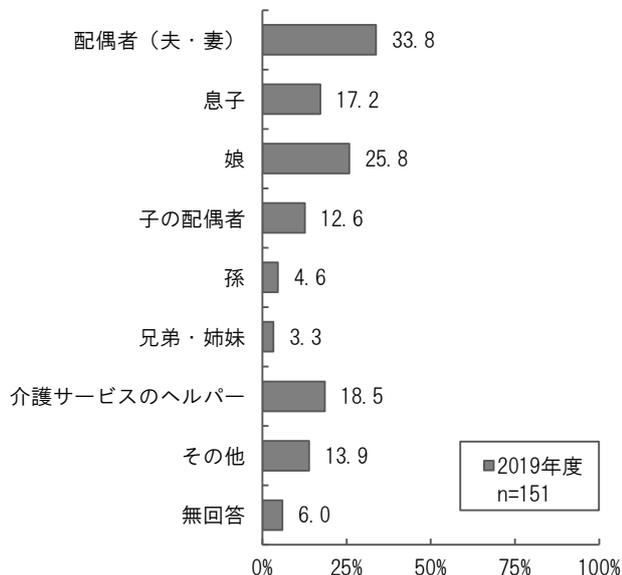
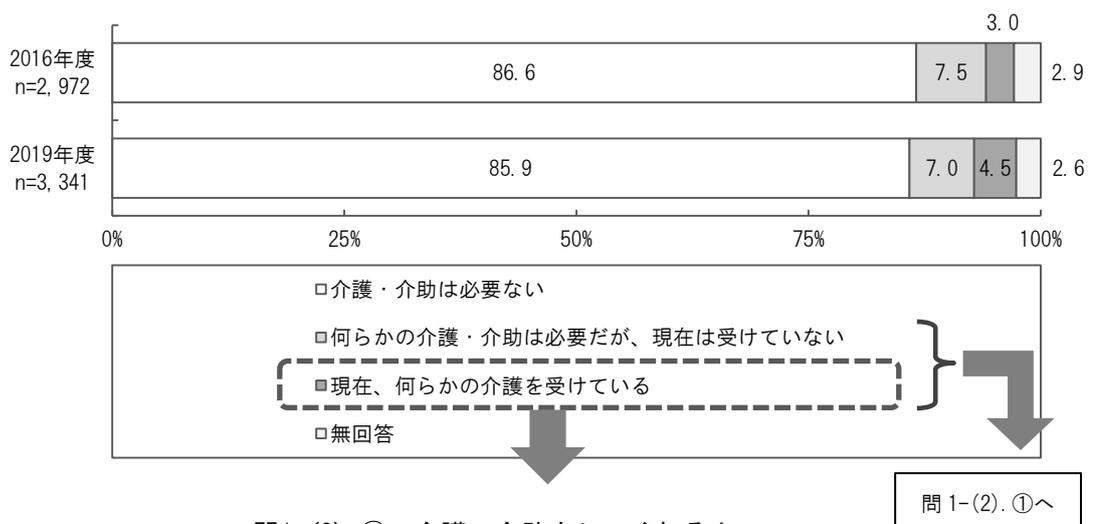
問1-(1).① 日中、1人になることの有無（経年比較）



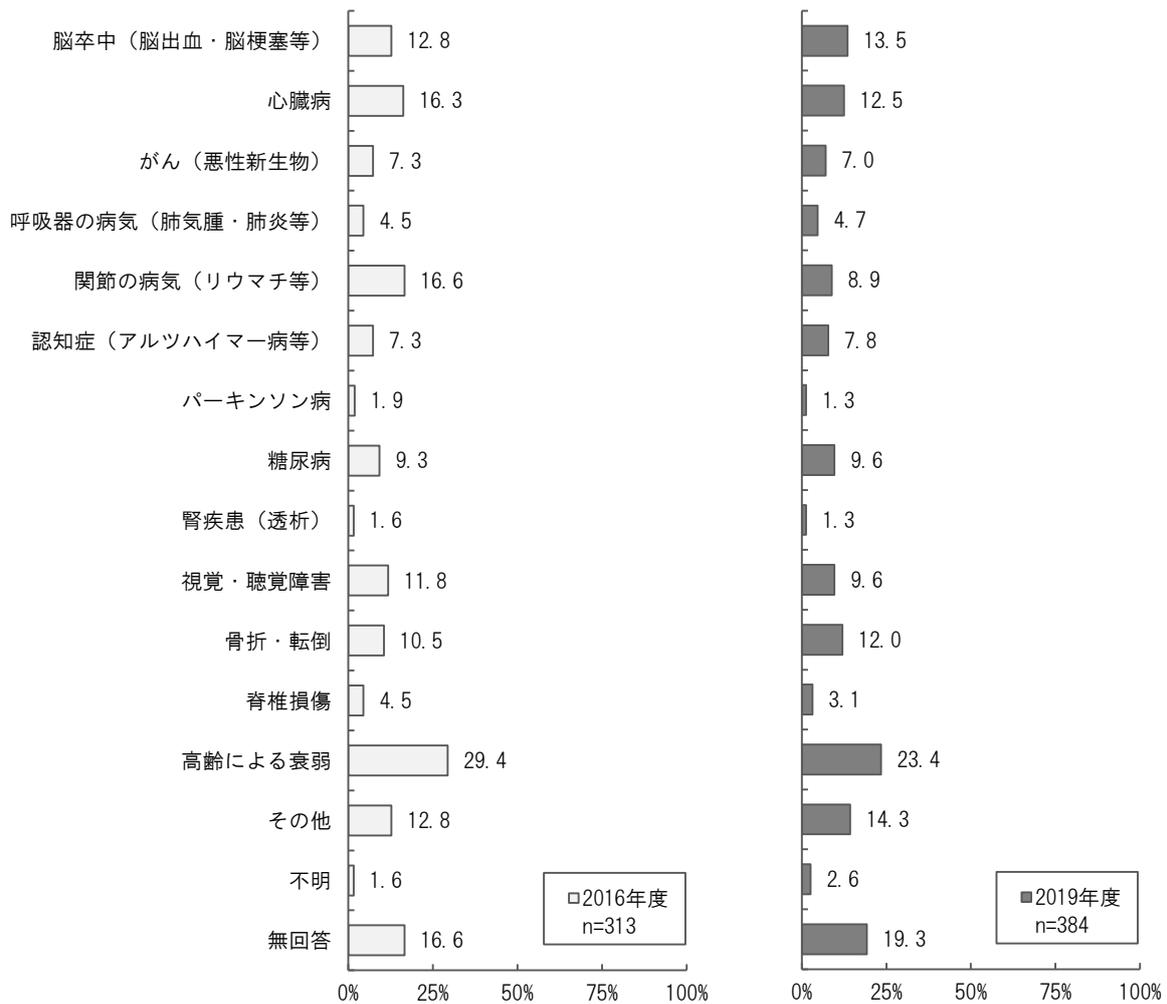
(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無

- 普段の生活における介護・介助の状況をみると、「介護・介助は必要ない」（85.9%）が最も高くなっています。
- 前回調査と比較すると、「現在、何らかの介護を受けている」方が1.5ポイント高くなっています。
- また、介護を受けていると回答した方の介護・介助をしてくれる人をみると、「配偶者（夫・妻）」（33.8%）が最も高く、次いで「娘」（25.8%）、「介護サービスのヘルパー」（18.5%）となっています。
- 介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」（23.4%）が最も高く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（13.5%）、「心臓病」（12.5%）、「骨折・転倒」（12.0%）となっています。
- 前回調査と比較すると、「骨折・転倒」で1.5ポイント、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」で0.7ポイント、「認知症（アルツハイマー病等）」で0.5ポイント、「糖尿病」で0.3ポイント、「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」で0.2ポイント高くなっています。

問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か（経年比較）



問1-(2).① 介護・介助が必要になった主な原因（経年比較）

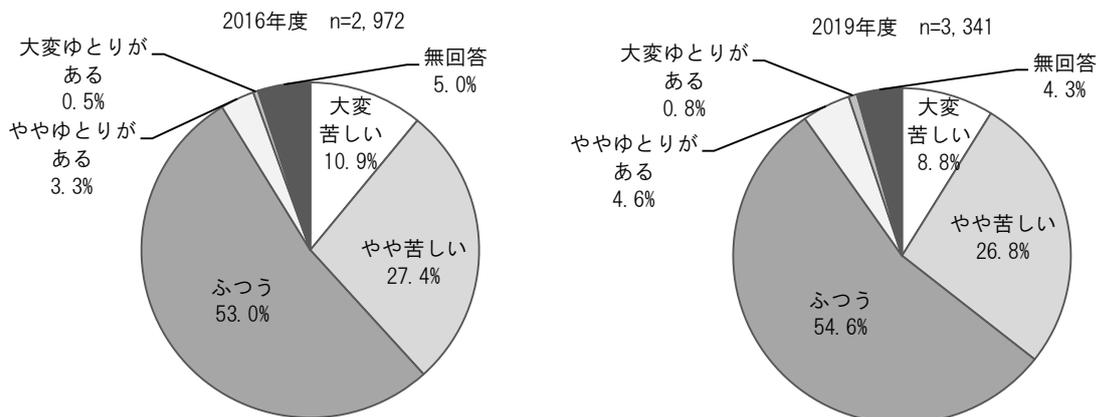


（3）現在の経済状況

○現在の暮らしの経済状況をみると、「ふつう」（54.6%）が最も高く、次いで「やや苦しい」（26.8%）、「大変苦しい」（8.8%）となっています。

○前回調査と比較すると、「大変苦しい」が2.1ポイント、「やや苦しい」が0.6ポイント低く、「ふつう」が1.6ポイント高くなっています。

問1-(3) 経済的にみた現在の暮らしの状況（経年比較）



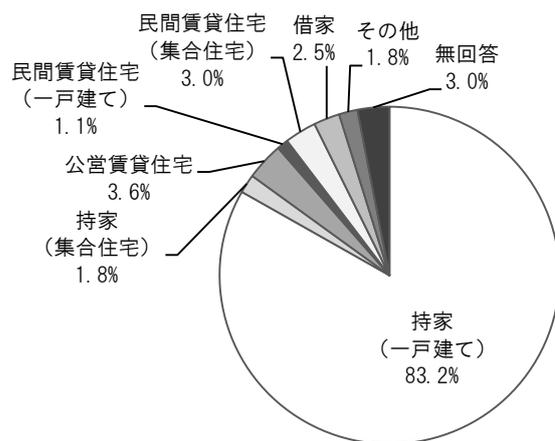
(4) 現在の住居環境

○現在暮らしている家の状況を見ると、「持家（一戸建て）」（83.2%）が最も高く、次いで「公営賃貸住宅」（3.6%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（3.0%）、「借家」（2.5%）となっています。

○主に生活する部屋が2階以上にある方は23.0%となっています。

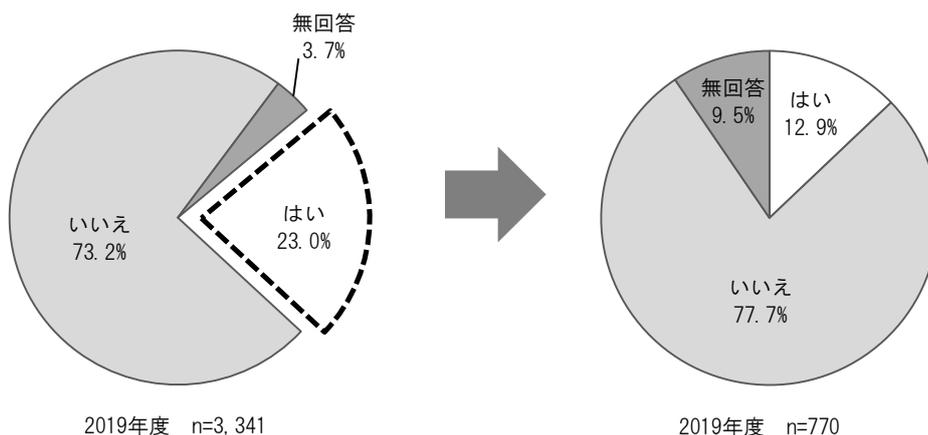
○また、主に生活する部屋が2階以上にある方のエレベーター設置状況を見ると、77.7%の方が未設置であると回答しています。

問1-(4) 現在暮らしている家の状況



2019年度 n=3,341

問1-(5) 2階以上に生活する部屋があるか 問1-(5).① エレベーターが設置されている



2019年度 n=3,341

2019年度 n=770

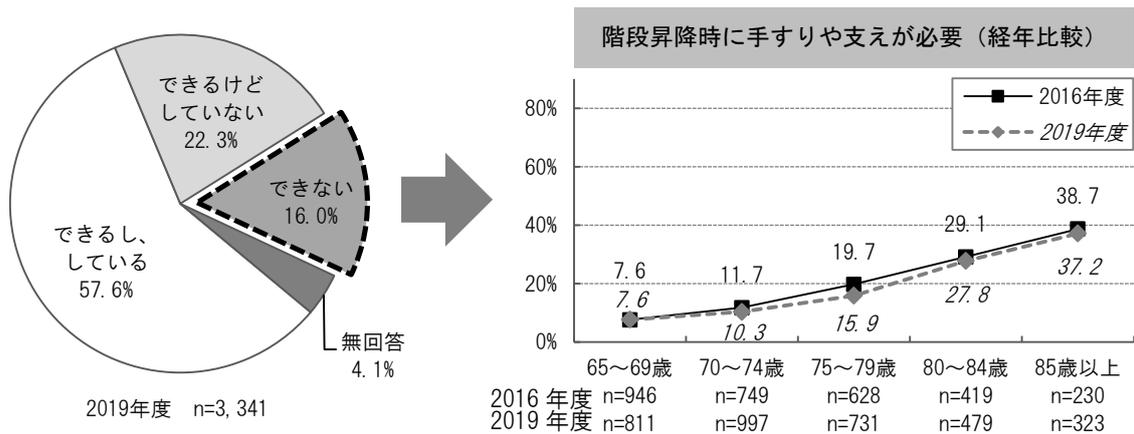
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

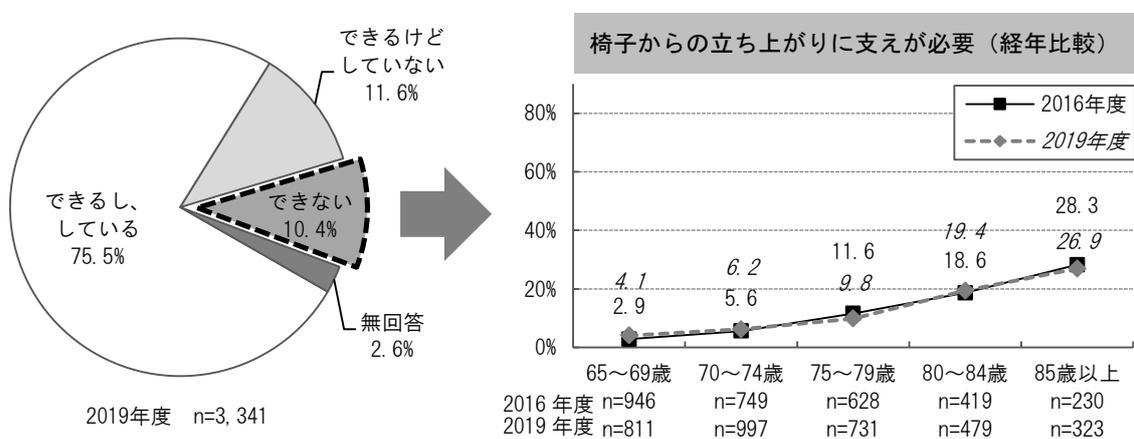
○階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができない方は16.0%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができない方は10.4%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか

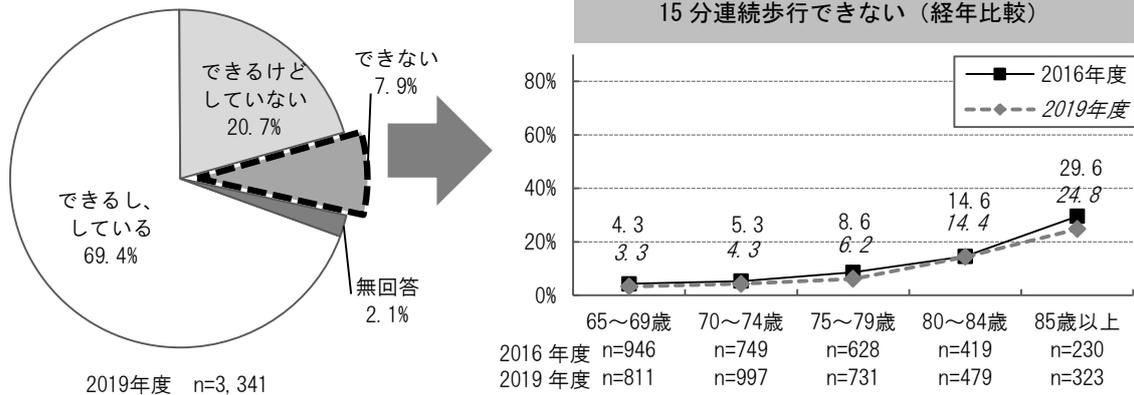


○15分位続けて歩くことができない方は7.9%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

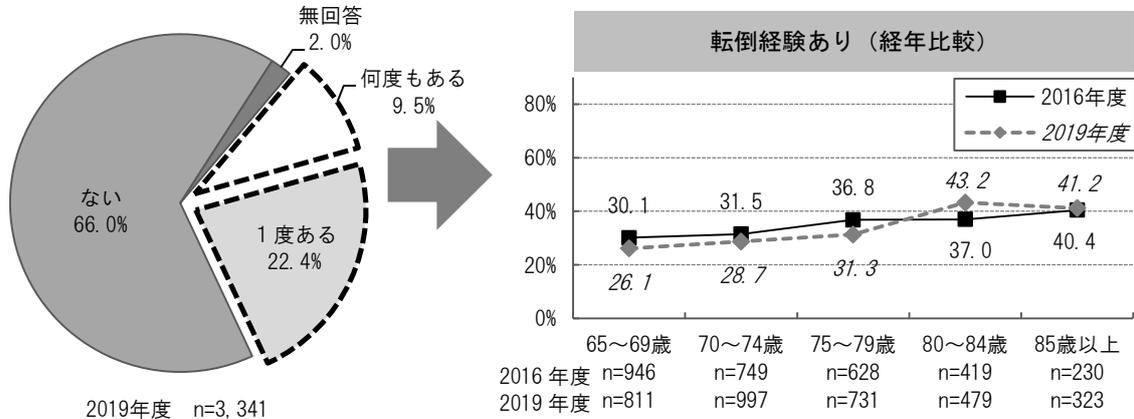
○過去1年間に転んだ経験がある方は、「1度ある」(22.4%)と「何度もある」(9.5%)を合わせた31.9%となり、年齢階級別にみると80~84歳まで加齢とともに割合が高くなっています。

○転倒に対する不安がある方は、「やや不安である」(37.7%)と「とても不安である」(13.2%)を合わせた50.9%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなり、80歳以降では6割を超えています。

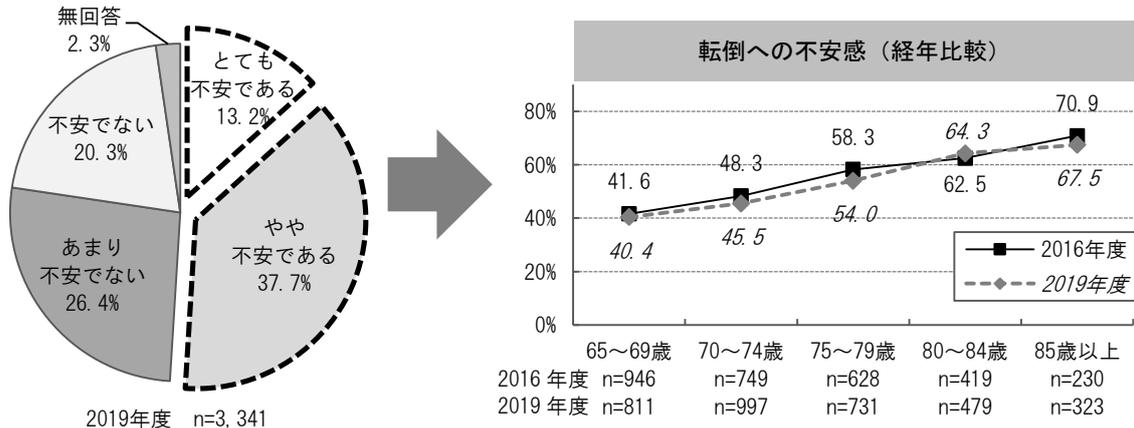
問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか



問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



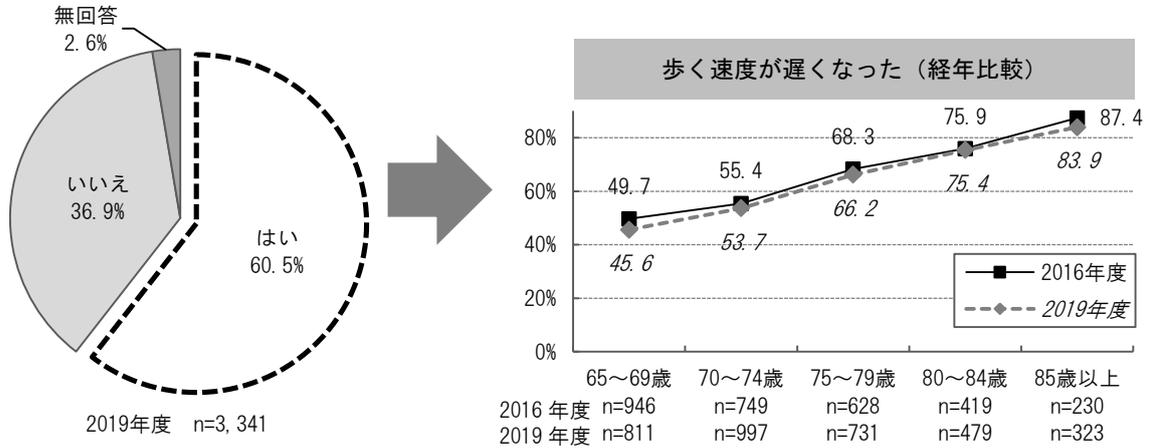
問2-(5) 転倒に対して不安であるか



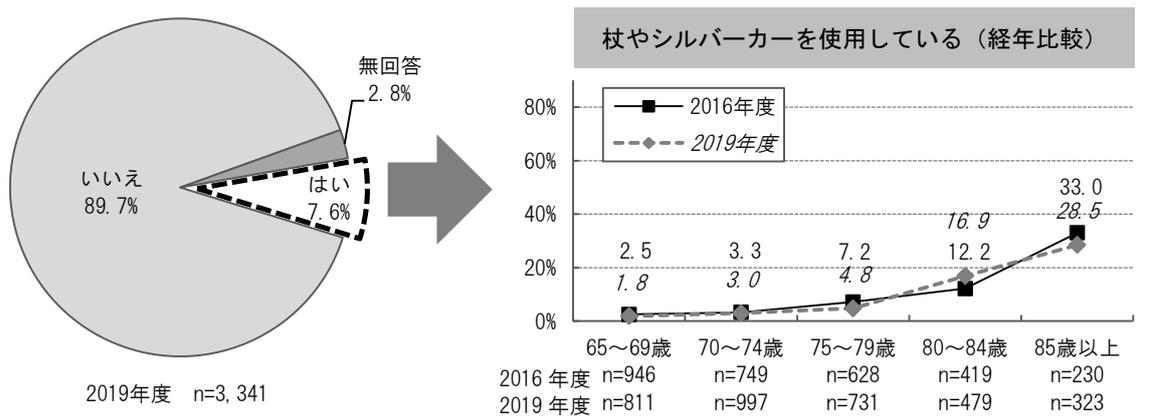
○以前に比べて歩く速度が遅くなった方は60.5%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなり、85歳以上では8割を超えています。

○杖やシルバーカーを使用している方は7.6%となり、年齢階級別にみると80歳以降で割合が高くなっています。

問2-(11) 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか



問2-(12) 杖やシルバーカーを使用しているか

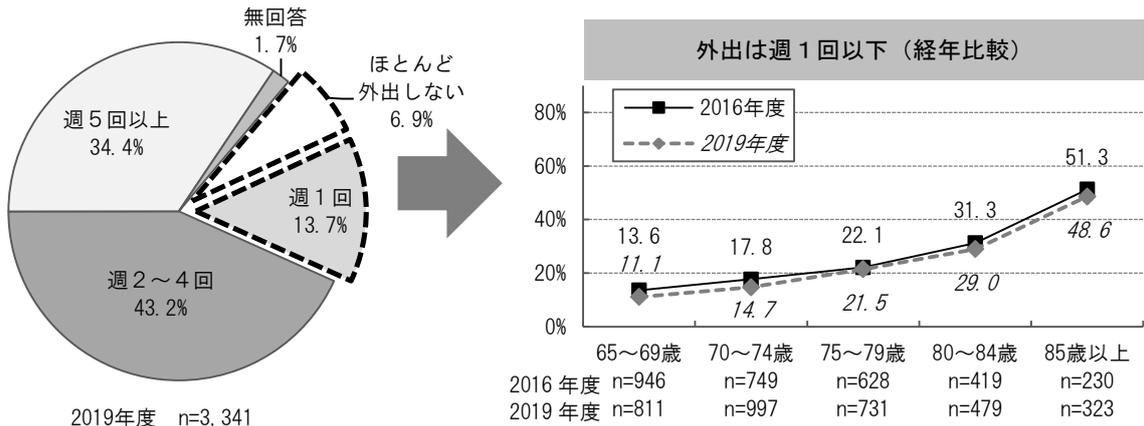


(2) 外出の状況

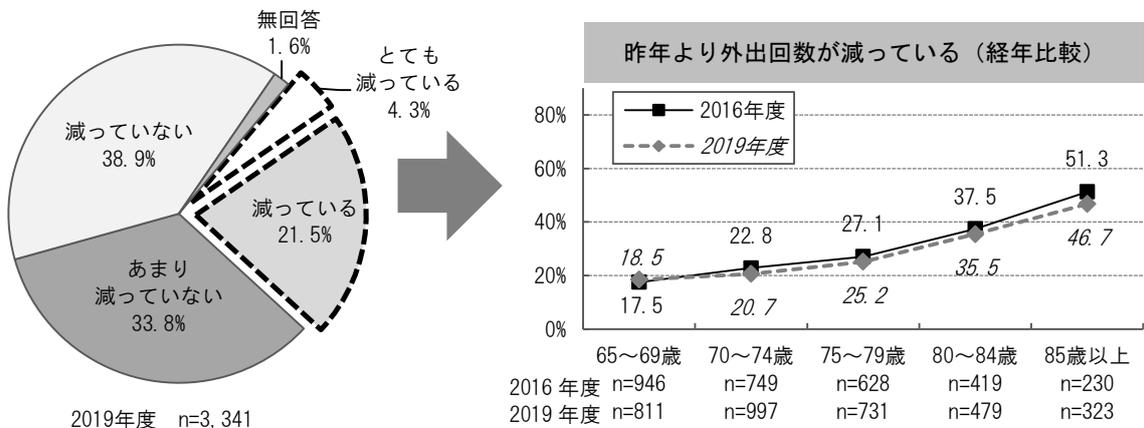
○週に1回以上は外出しているかでは、「週1回」(13.7%)と「ほとんど外出しない」(6.9%)を合わせた20.6%の方が週1回以下と回答し、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

○昨年と比べた外出の頻度をみると、「減っている」(21.5%)と「とても減っている」(4.3%)を合わせた25.8%となり、年齢階級別にみると80歳以降で割合が高くなっています。

問2-(6) 週に1回以上は外出しているか



問2-(7) 昨年と比べた外出頻度



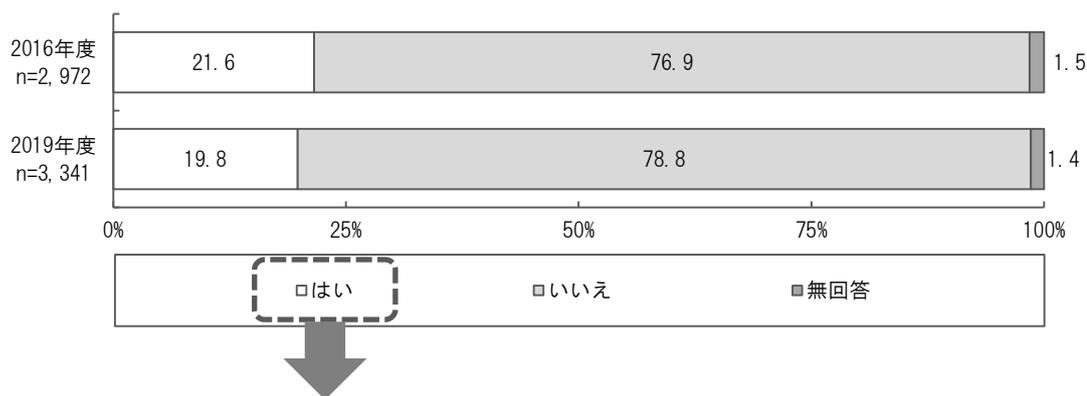
○外出を控えている方は19.8%となっています。

○前回調査と比較すると、外出を控えている方は1.8ポイント低くなっています。

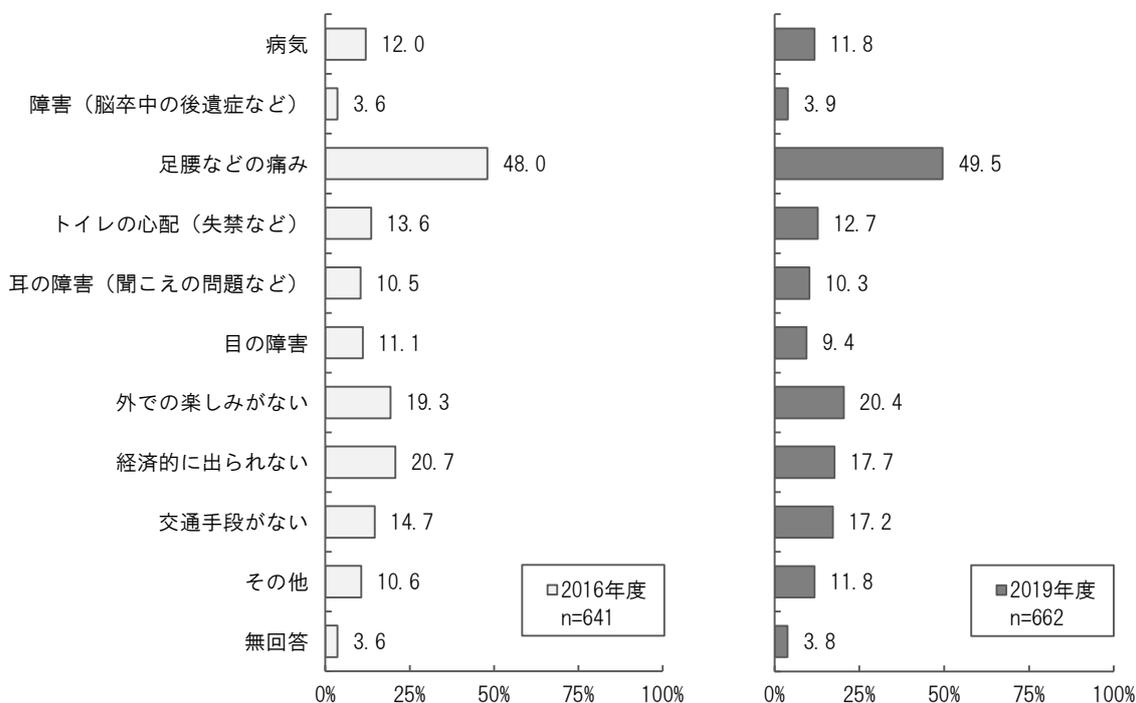
○外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」(49.5%)が最も高く、次いで「外での楽しみがない」(20.4%)、「経済的に出られない」(17.7%)、「交通手段がない」(17.2%)となっています。

○前回調査と比較すると、「交通手段がない」で2.5ポイント、「足腰などの痛み」で1.5ポイント、「外での楽しみがない」で1.1ポイント、「障害(脳卒中の後遺症など)」で0.3ポイント高くなっています。

問2-(8) 外出を控えているか(経年比較)



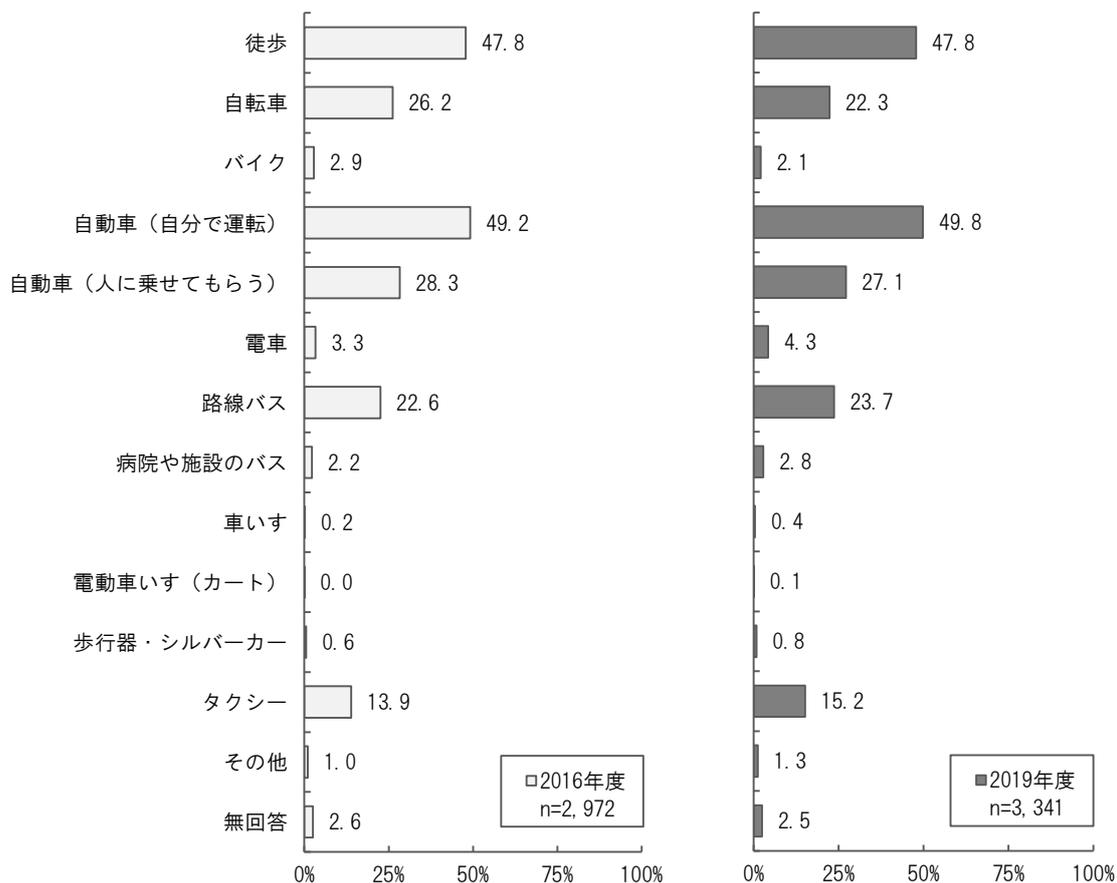
問2-(8).① 外出を控えている理由(経年比較)



○外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」（49.8%）が最も高く、次いで「徒歩」（47.8%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（27.1%）、「路線バス」（23.7%）、「自転車」（22.3%）、「タクシー」（15.2%）、「電車」（4.3%）となっています。

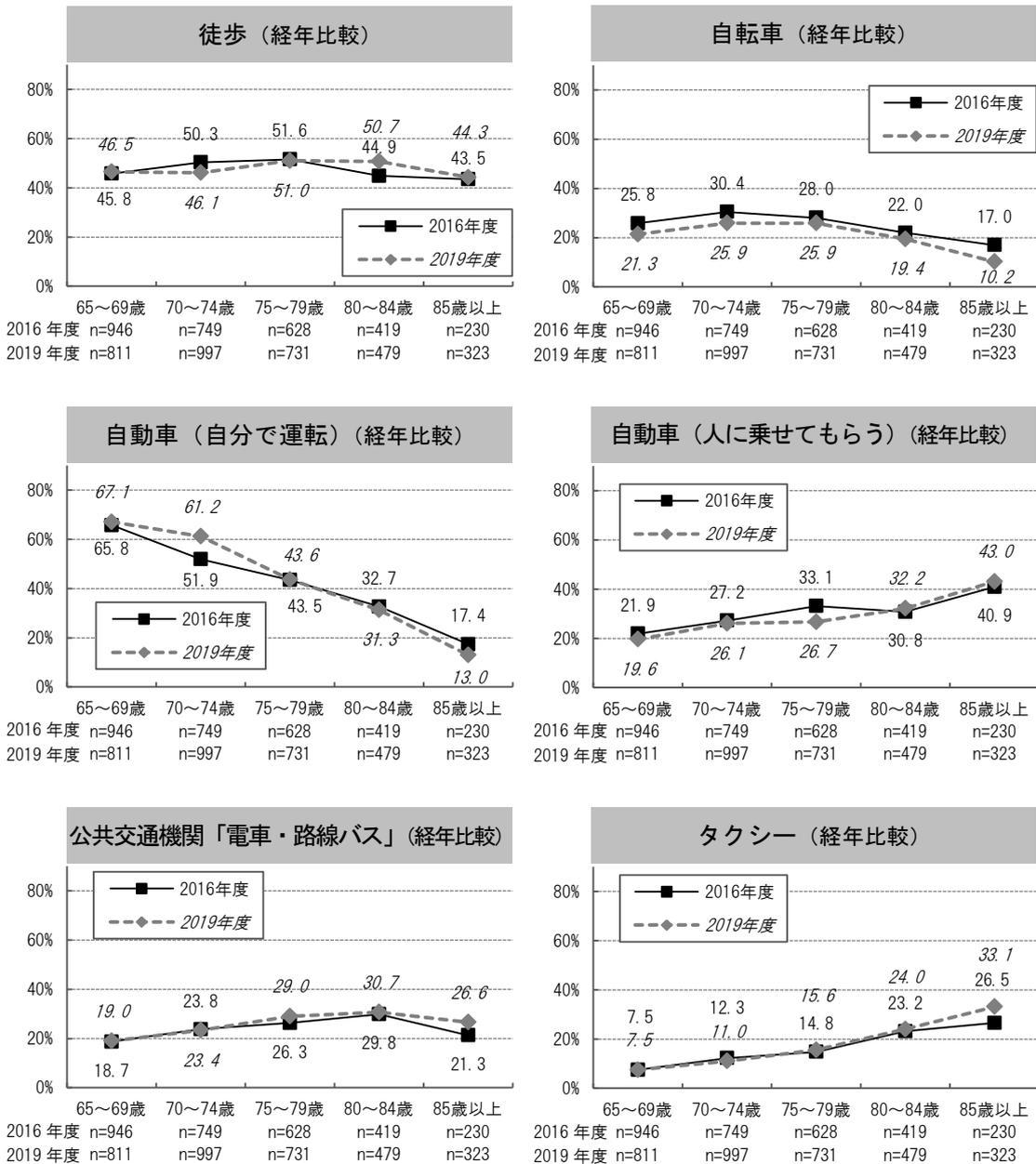
○前回調査と比較すると、「自動車（自分で運転）」、「徒歩」の割合にほとんど変化はなく、「タクシー」は1.3^{ポイント}、「路線バス」は1.1^{ポイント}、「電車」は1.0^{ポイント}高くなっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段（経年比較）



- 外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「自転車」は80歳以降で利用割合が低下しています。
- 「自動車（自分で運転）」は加齢とともに利用割合が低くなっています。
- 一方、「自動車（人に乗せてもらう）」は、加齢とともに利用割合が高くなる傾向です。
- 「公共交通機関（電車・路線バス）」は加齢とともに利用が増えていますが、85歳以上で利用が減少しています。

問2-(9) 年齢階級別移動手段（経年比較）



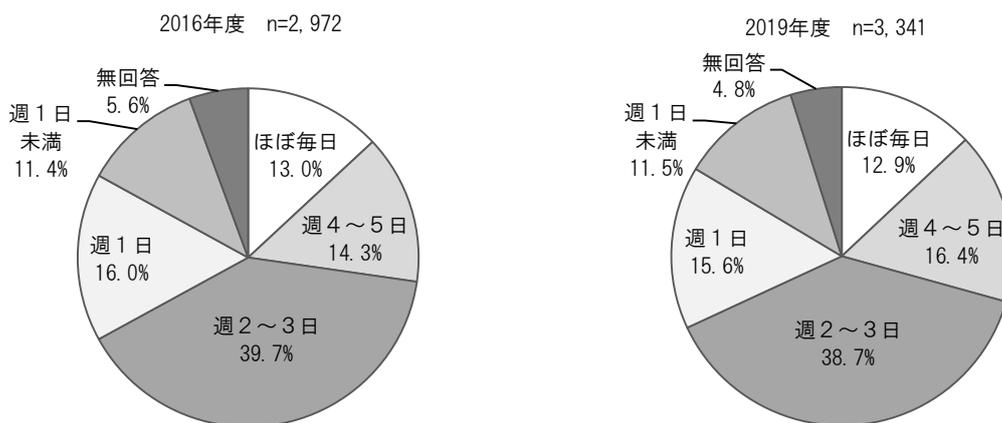
○買い物で外出する頻度では、「週2～3日」(38.7%)が最も高く、次いで「週4～5日」(16.4%)、「週1日」(15.6%)、「ほぼ毎日」(12.9%)となっています。

○前回調査と比較すると、「週4～5日」で2.1ポイント高くなっています。

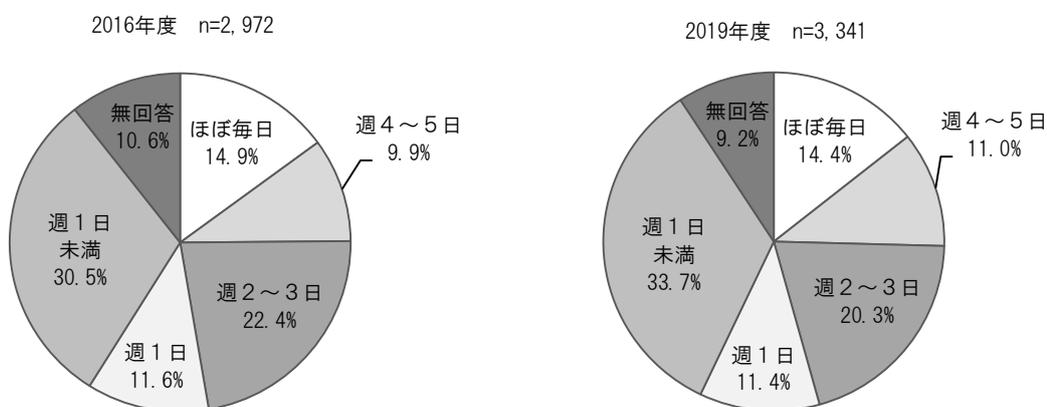
○散歩で外出する頻度では、「週1日未満」(33.7%)が最も高く、次いで「週2～3日」(20.3%)、「ほぼ毎日」(14.4%)、「週1日」(11.4%)となっています。

○前回調査と比較すると、「週1日未満」で3.2ポイント、「週4～5日」で1.1ポイント高くなっています。

問2-(10).① 買い物で外出する頻度 (経年比較)



問2-(10).② 散歩で外出する頻度 (経年比較)



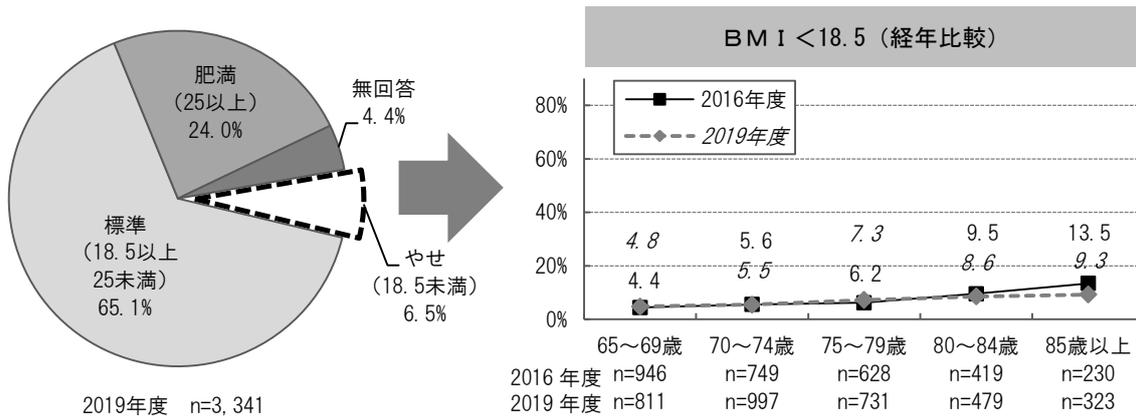
3 食べることについて

(1) 現在の体重（BMI）状況

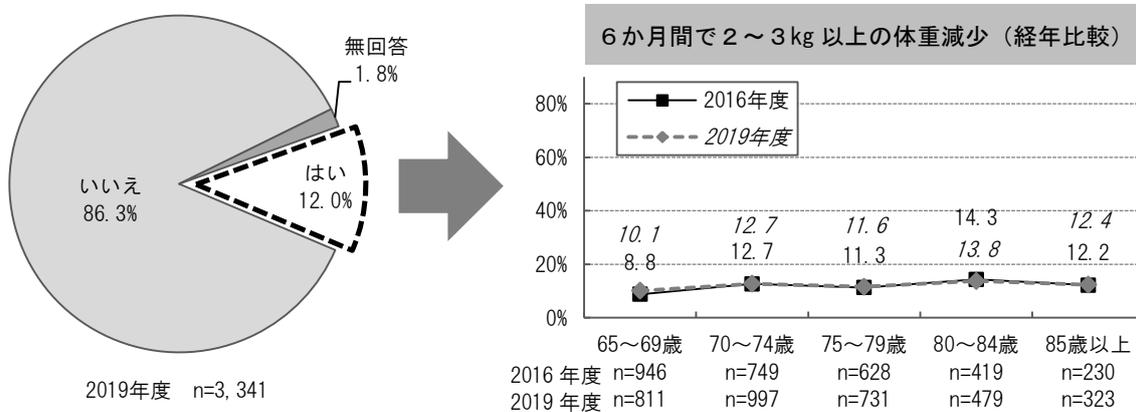
○高齢者の肥満状況をBMI指数で見ると、「やせ（18.5未満）」の方は6.5%となり、年齢階級別にみると加齢とともにやや高くなっています。

○6か月間で2～3kg以上の体重減少があった方は12.0%となり、年齢階級別にみると一定の割合で横ばいとなっています。

問3-(1) BMI



問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があるか



(2) 歯・口腔の状況

○歯の数と入れ歯の利用状況をみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(45.6%)と「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(12.5%)を合わせた58.1%の方が入れ歯を利用しています。

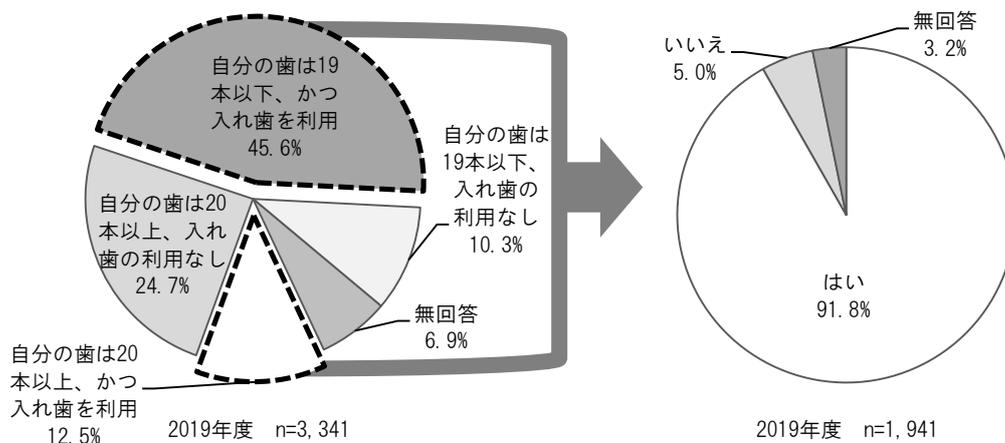
○入れ歯利用者のうち、毎日入れ歯の手入れをしている方は91.8%となっています。

○噛み合わせが良い方は75.6%となっています。

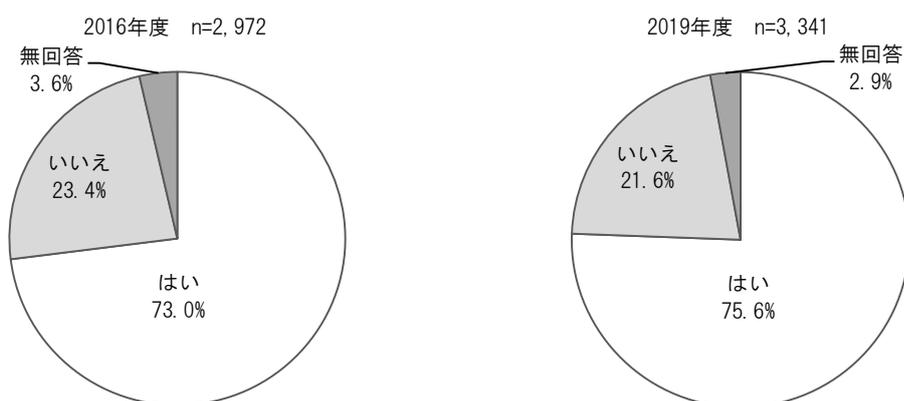
○前回調査と比較すると、噛み合わせが良い方は2.6ポイント高くなっています。

問3-(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

問3-(3).① 毎日入れ歯の手入れをしているか



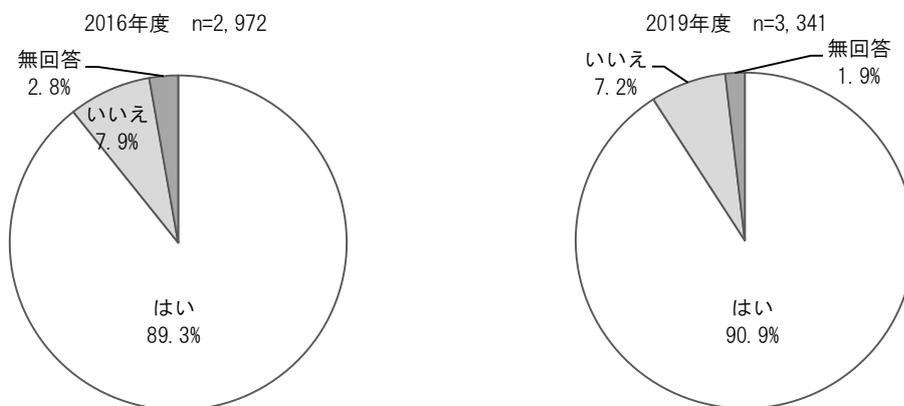
問3-(3).② 噛み合わせは良いか (経年比較)



○歯磨きを毎日している方は90.9%となっています。

○前回調査と比較すると、歯磨きを毎日している方は1.6^{ポイント}高くなっています。

問3-(7) 歯磨きを毎日しているか（経年比較）

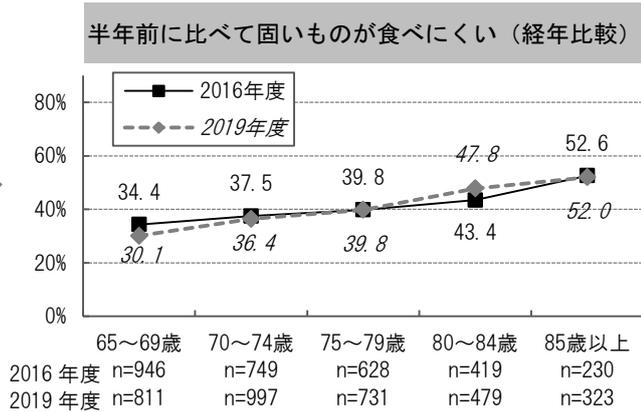
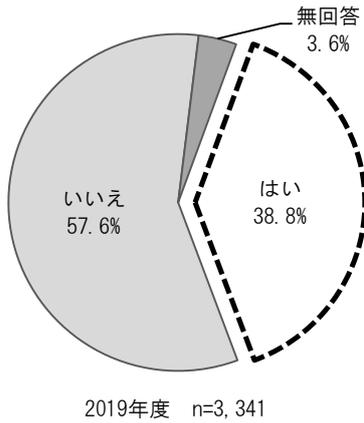


○半年前に比べて固いものが食べにくい方は38.8%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

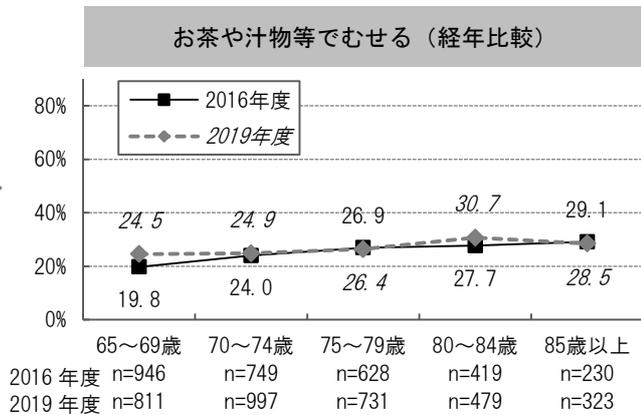
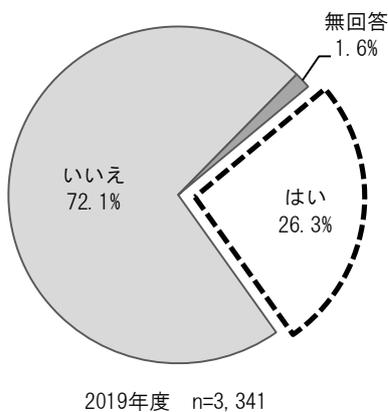
○お茶や汁物等でむせることがある方は26.3%となり、年齢階級別にみると84歳まで加齢とともに割合が高くなっています。

○口の渇きが気になる方は25.2%で、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

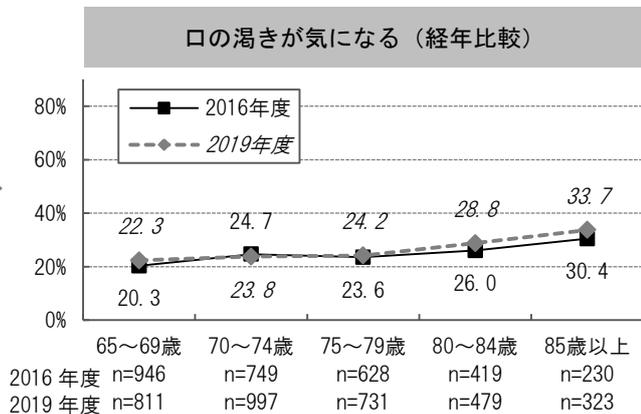
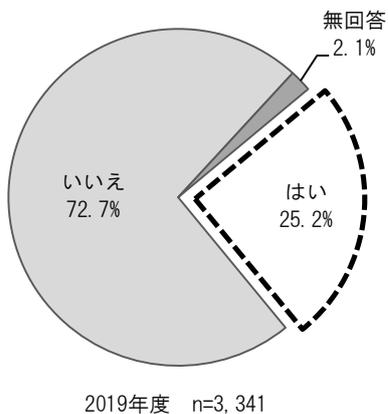
問3-(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



問3-(5) お茶や汁物等でむせることがある



問3-(6) 口の渇きが気になるか



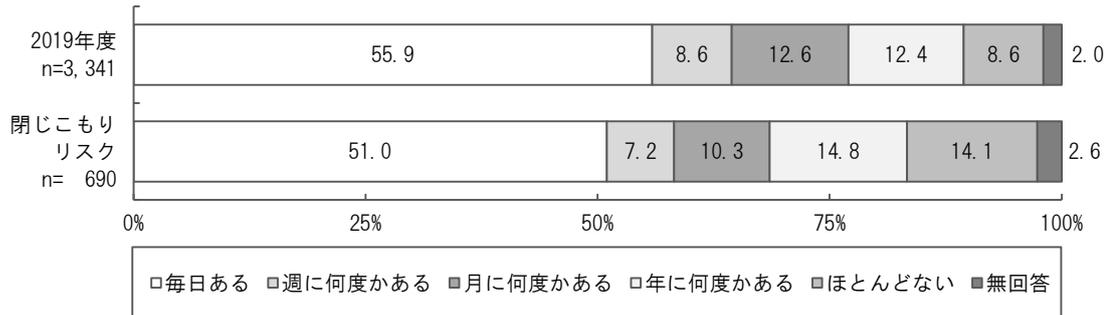
(3) 食事の状況

○どなたかと食事をとにもする機会をみると、全体・閉じこもりリスク者ともに「毎日ある」(55.9%・51.0%)が最も高いものの、「ほとんどない」の閉じこもりリスク者は14.1%となっており、全体を5.5ポイント上回る状況です。

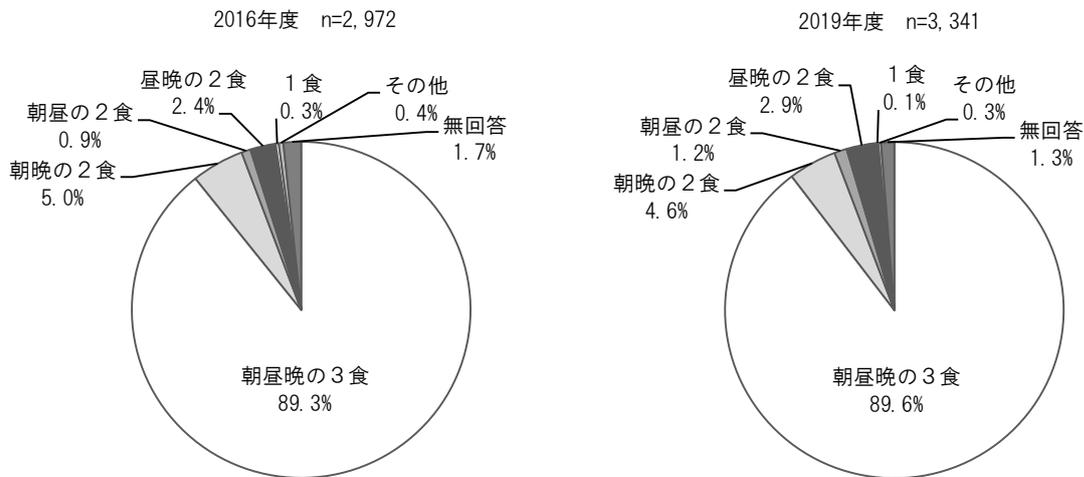
○1日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」(89.6%)が最も高くなっています。

○前回調査と比較すると、「朝昼晩の3食」は0.3ポイント高くなっています。

問3-(4) どなたかと食事をとにもする機会 (×「閉じこもりリスク者」)



問3-(9) 1日の食事の回数 (経年比較)



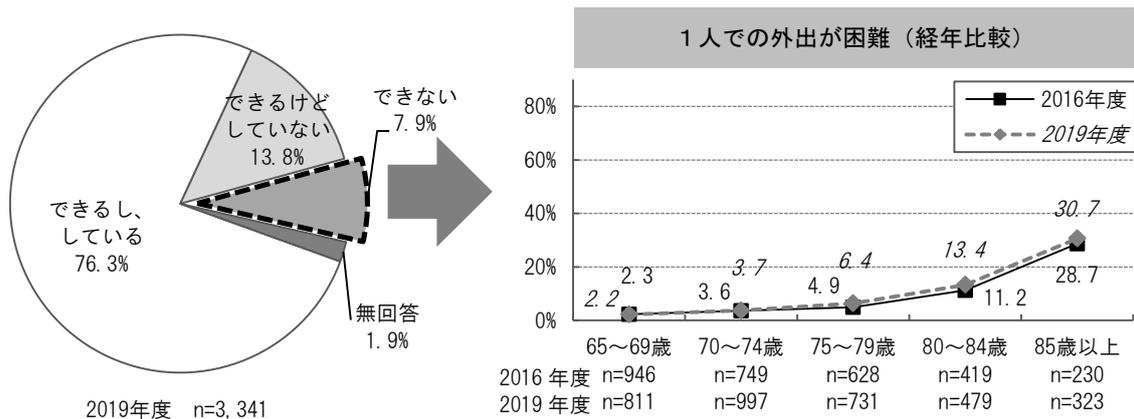
4 毎日の生活について

(1) IADL（手段的自立度）の状況

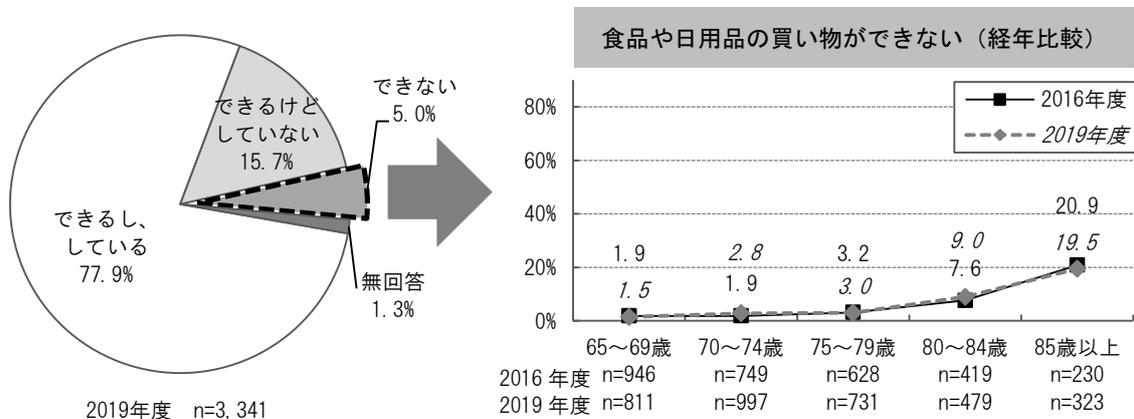
○バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」方が7.9%となり、その該当者の年齢階級別にみると85歳以上で約3割まで上昇します。

○自分で食品・日用品の買い物をしているかでは、「できない」方が5.0%となり、その該当者の年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか

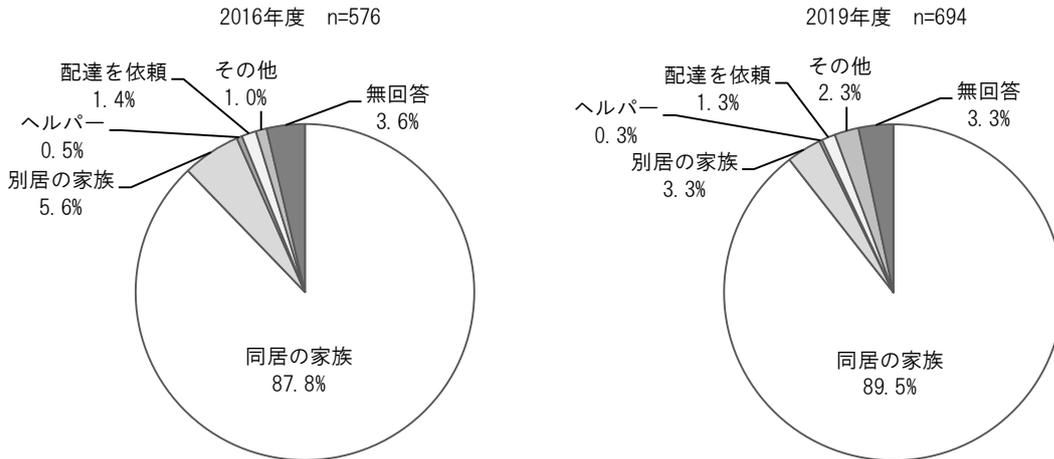


問4-(3) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

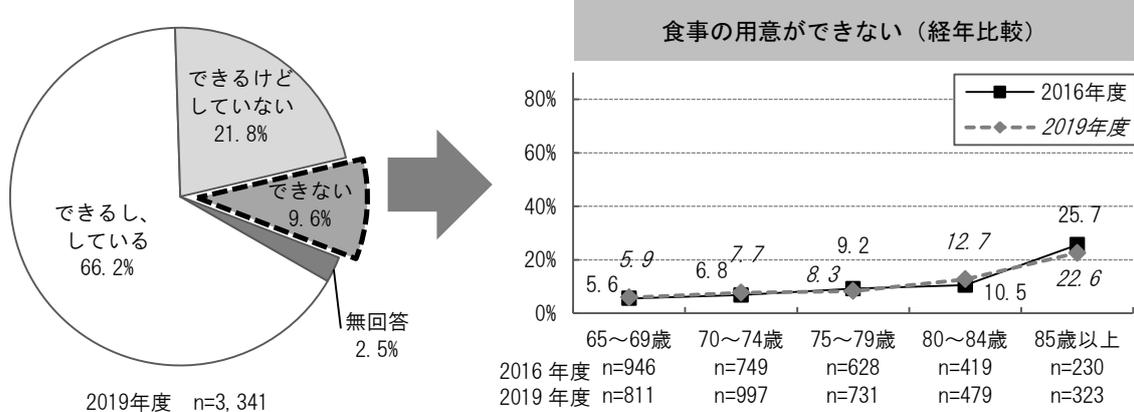


- 食品・日用品の買い物をする人は、「同居の家族」(89.5%)が最も高くなっています。
- 前回調査と比較すると、「同居の家族」で1.7%高くなっています。
- 自分で食事の用意ができない方は9.6%となり、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

問4-(3). ① 食品・日用品の買い物をする人 (経年比較)
【問4-(3)において「2. できるけどしていない」「3. できない」に回答の方】



問4-(4) 自分で食事の用意をしているか



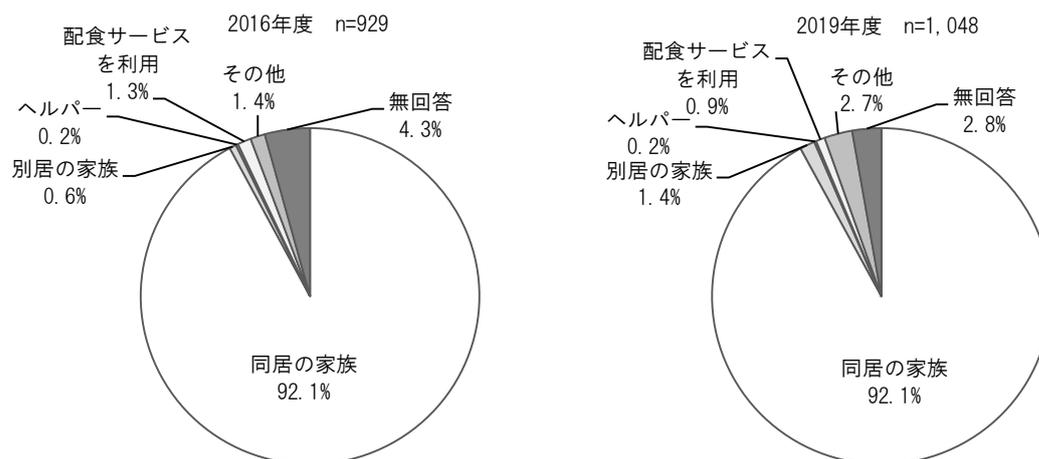
○食事の用意をする人は、「同居の家族」(92.1%)が最も高い一方、「配食サービスを利用」している方は0.9%でわずかとなっています。

○前回調査と比較すると、「別居の家族」で0.8^{ポイント}高くなっています。

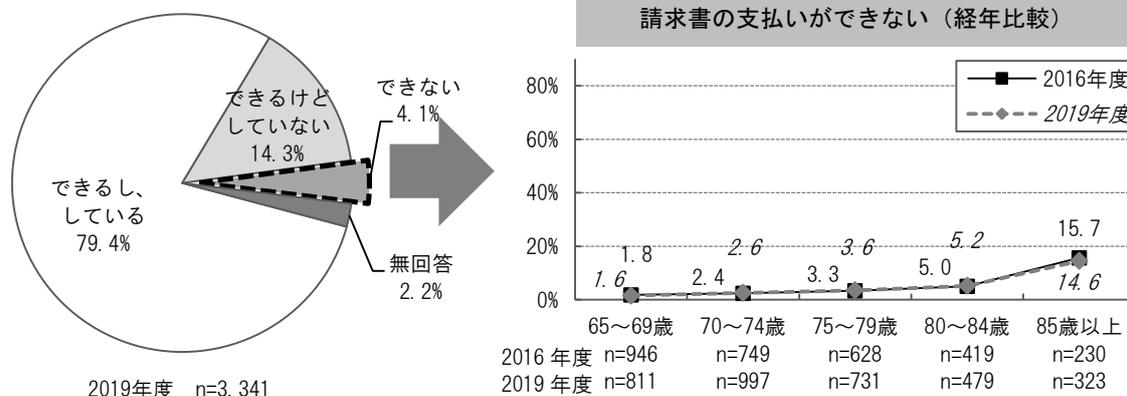
○自分で請求書の支払いができない方は4.1%となり、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

問4-(4). ① 食事の用意をする人 (経年比較)

【問4-(4)において「2. できるけどしていない」「3. できない」に回答の方】

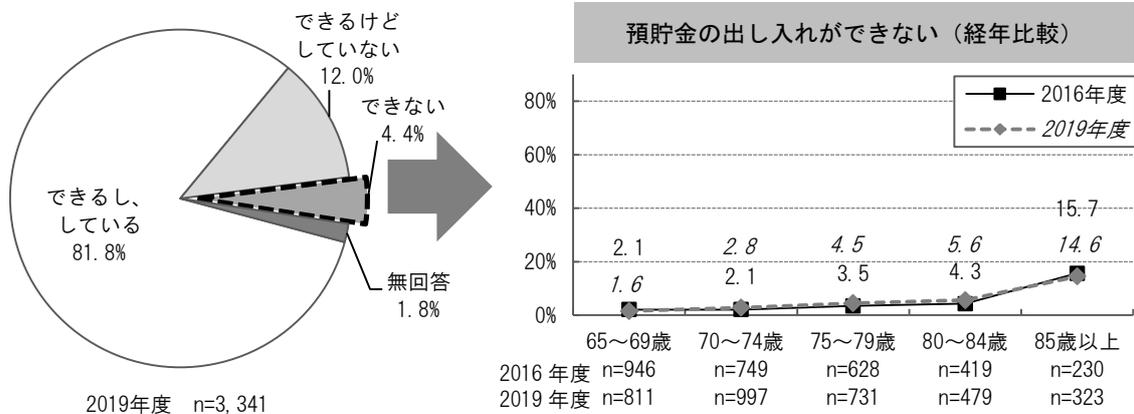


問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



○自分で預貯金の出し入れができない方は4.4%となり、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

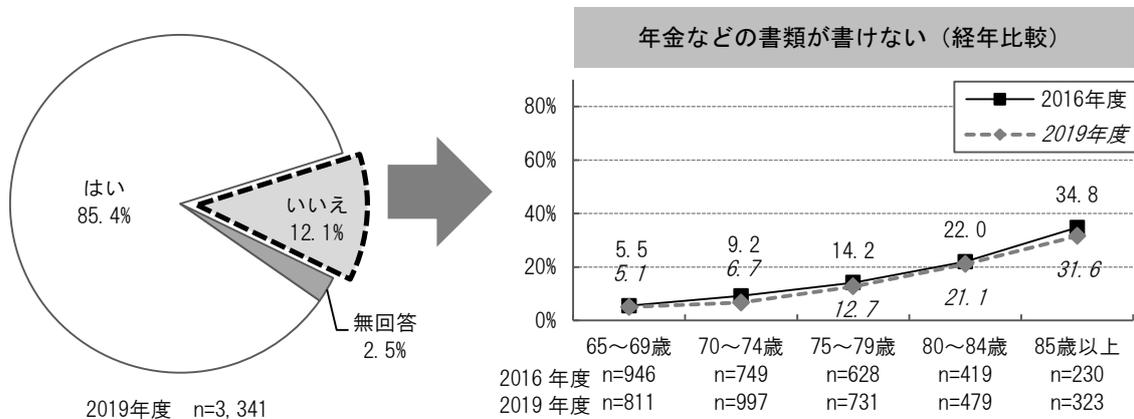
問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



(2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けない方は12.1%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(9) 年金などの書類が書けるか

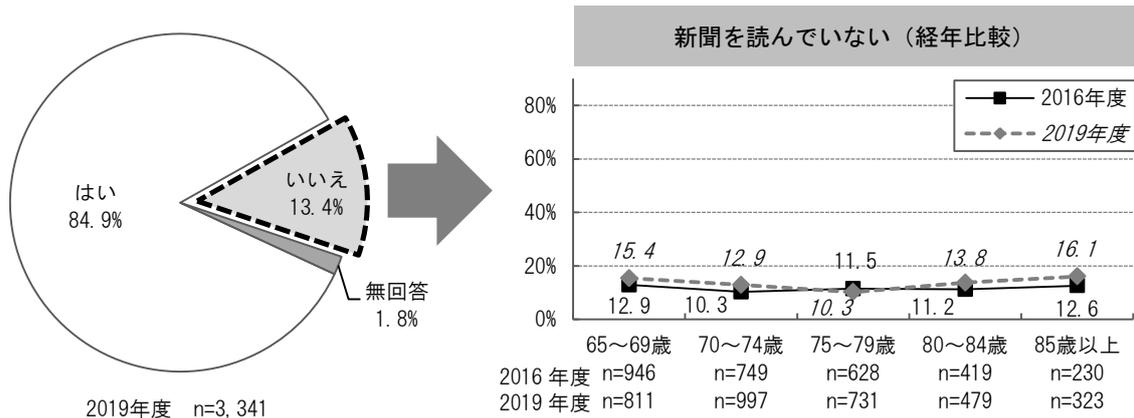


○新聞を読んでいない方は13.4%となり、年齢階級別は一定の割合で横ばいとなっています。

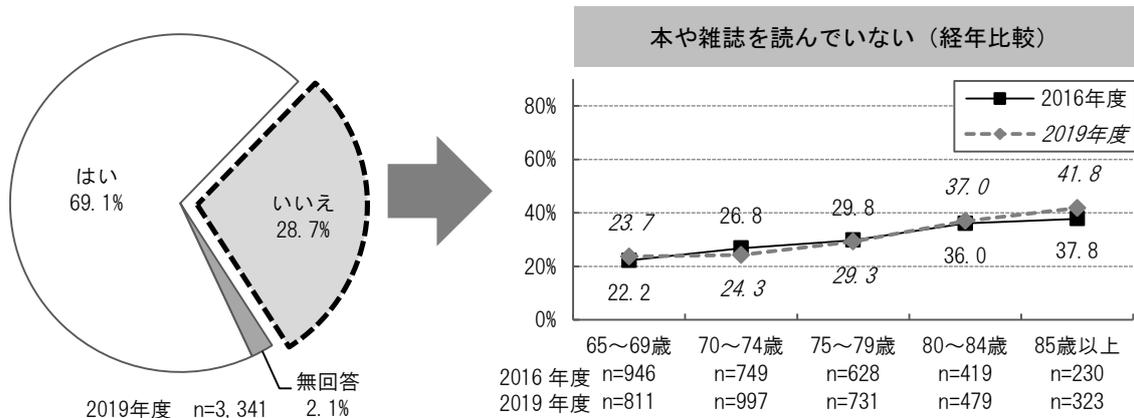
○本や雑誌を読んでいない方は28.7%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○健康についての記事や番組に関心がない方は11.2%となり、年齢階級別にみると80歳以降で加齢とともに割合が高くなっています。

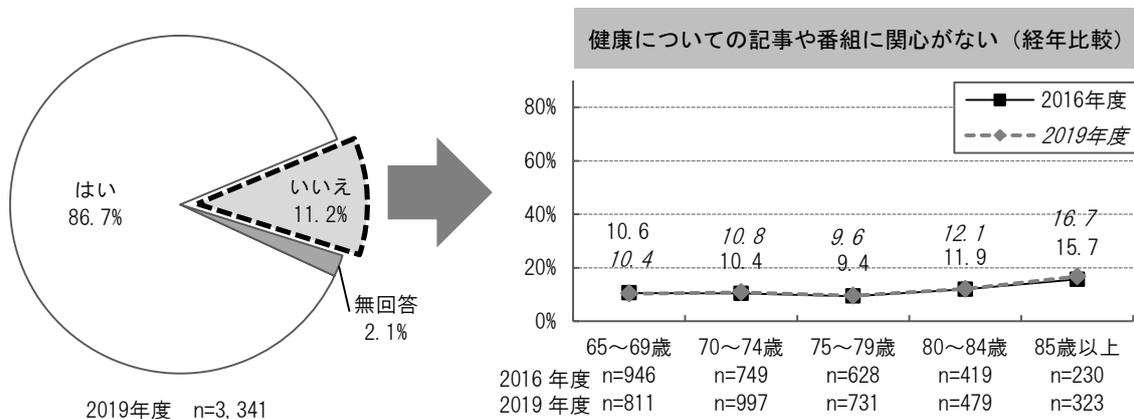
問4-(10) 新聞を読んでいるか



問4-(11) 本や雑誌を読んでいるか



問4-(12) 健康についての記事や番組に関心がある



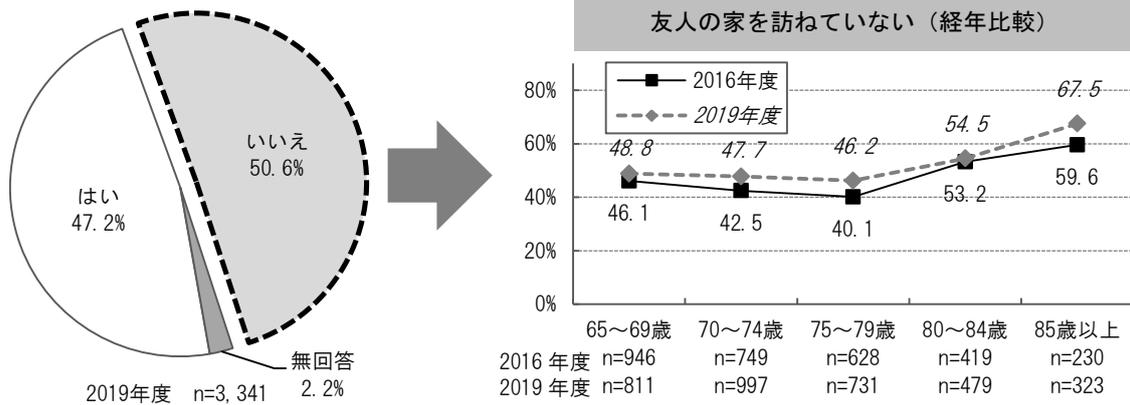
(3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねていない方は50.6%となり、年齢階級別にみると80歳以降で5割を超えて高くなっています。

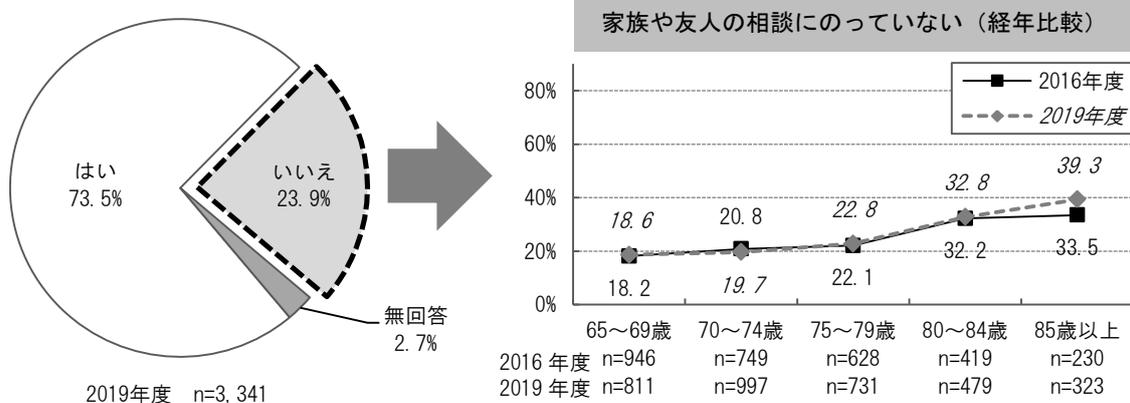
○家族や友人の相談にのっていない方は23.9%となり、年齢階級別にみると80歳以降で3割を超えて高くなっています。

○病人を見舞うことができない方は11.1%となり、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

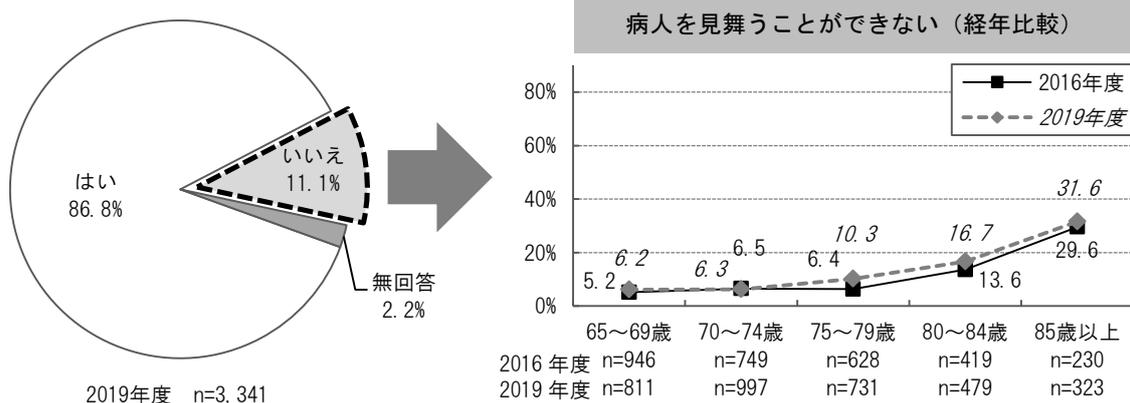
問4-(13) 友人の家を訪ねているか



問4-(14) 家族や友人の相談にのっているか

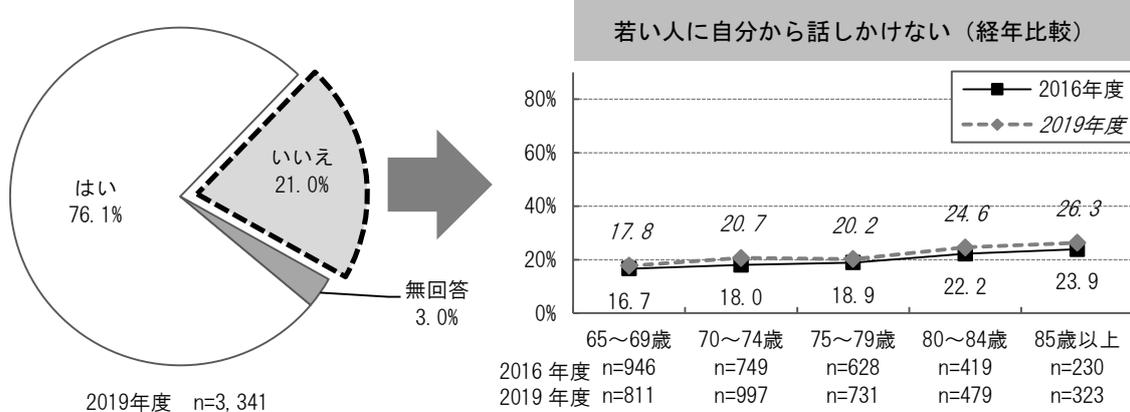


問4-(15) 病人を見舞うことができるか



○若い人に自分から話しかけない方は21.0%となり、年齢階級別にみると80歳以降で加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(16) 若い人に自分から話しかけることはあるか

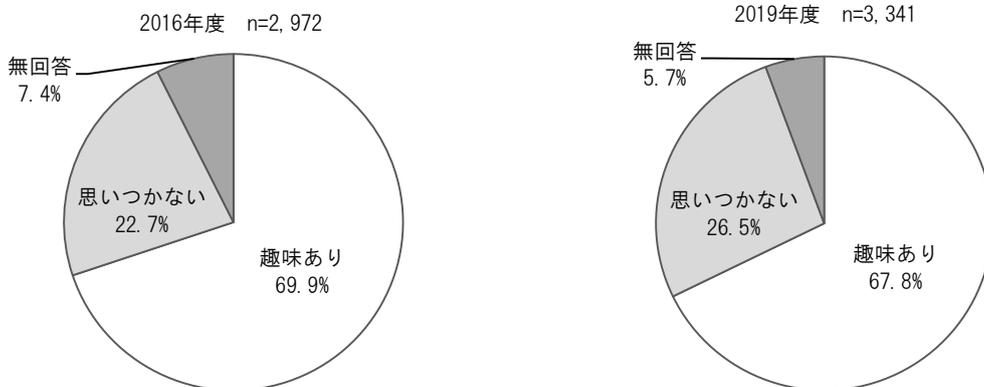


(4) こころの健康状態

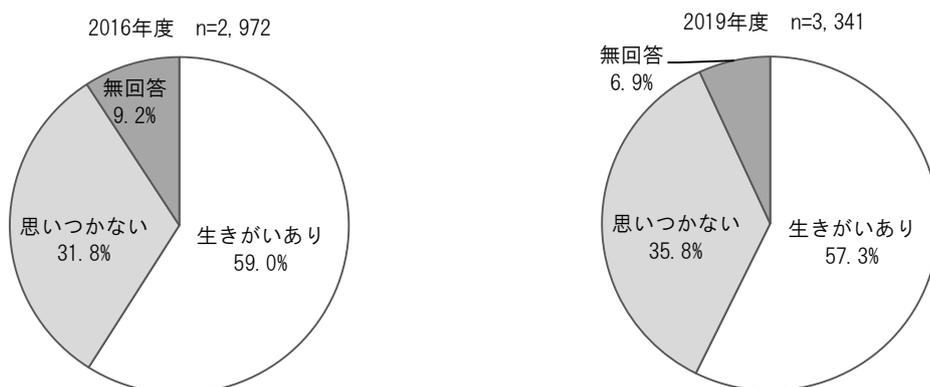
○趣味がある方は67.8%で、前回調査と比較すると、「思いつかない」方が3.8ポイント高くなっています。

○生きがいがある方は57.3%で、前回調査と比較すると、「思いつかない」方が4.0ポイント高くなっています。

問4-(17) 趣味はあるか (経年比較)

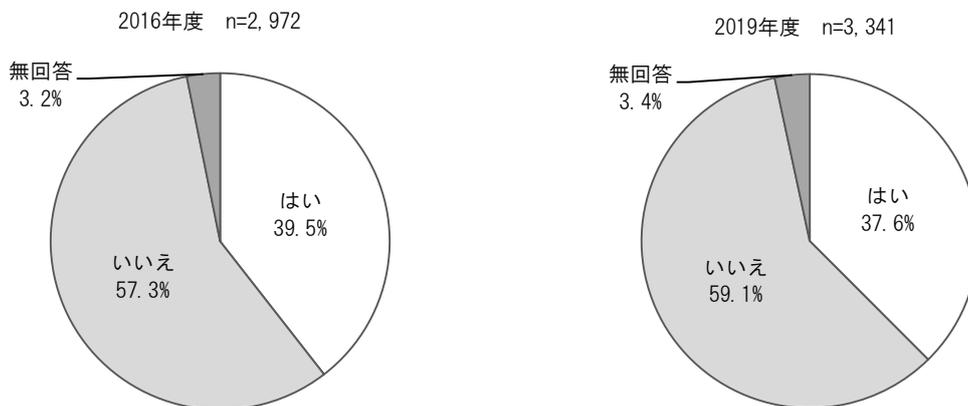


問4-(18) 生きがいはあるか (経年比較)

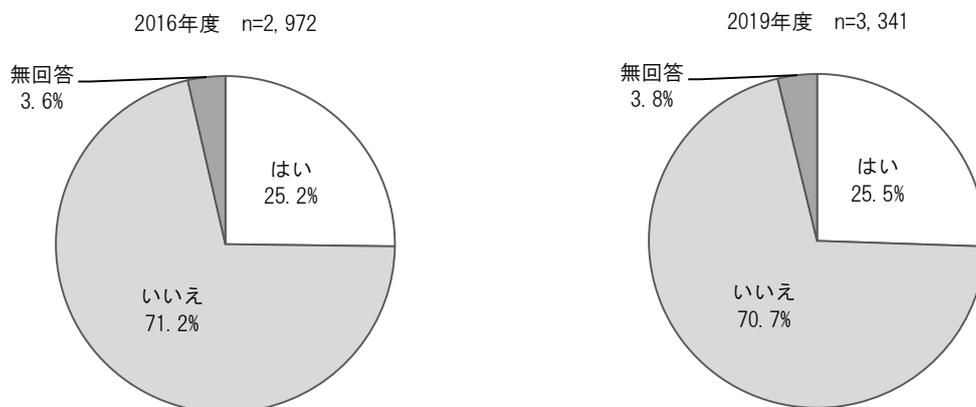


- この1か月間、気分が沈んだりすることがある方は37.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、気分が沈んだりすることがある方は1.9^{ポイント}低くなっています。
- この1か月間、物事に対して心から楽しめない方は25.5%となっています。
- 前回調査と比較すると、物事に対して心から楽しめない方は0.3^{ポイント}高くなっています。

問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする（経年比較）

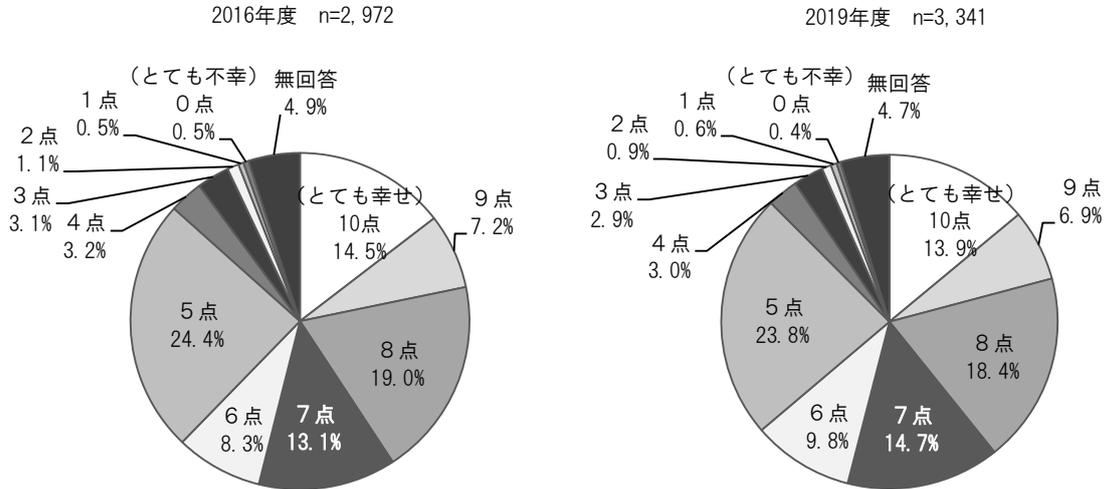


問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない（経年比較）



- 現在の主観的幸福感を点数で見ると、「5点」(23.8%)が最も高く、次いで「8点」(18.4%)、「7点」(14.7%)、「(とても幸せ)10点」(13.9%)の順となっています。
- 前回調査と比較すると、「7点」で1.6ポイント、「6点」で1.5ポイント高くなっています。

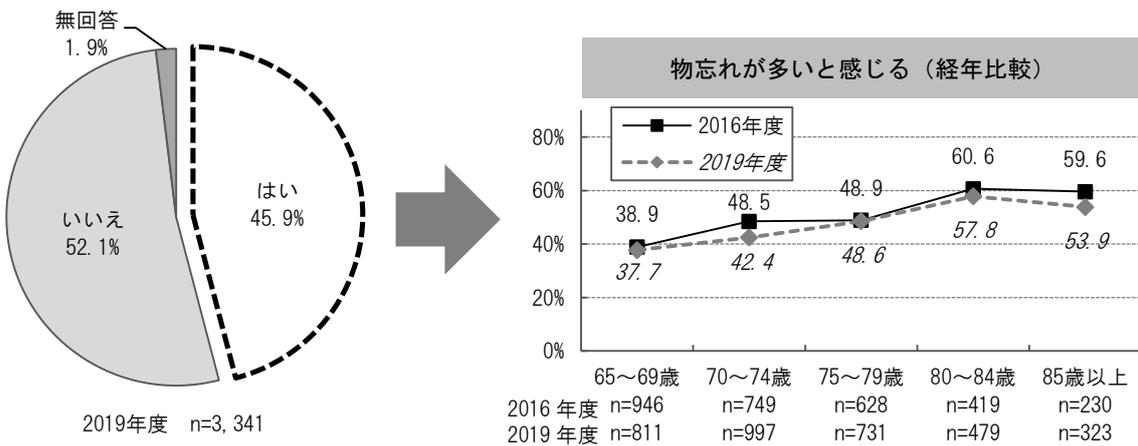
問7-(2) 現在の主観的幸福感 (経年比較)



(5) 物忘れの状況

- 物忘れが多いと感じる方は45.9%で、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなる傾向です。

問4-(1) 物忘れが多いと感じるか

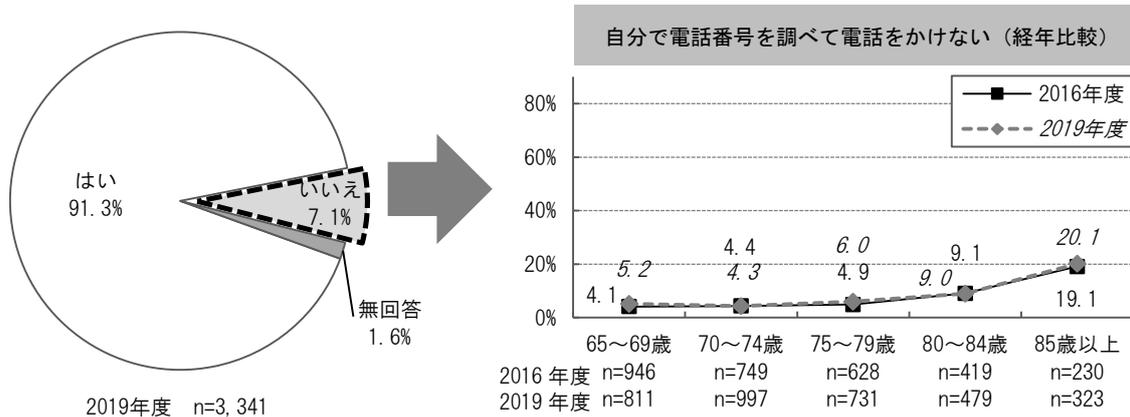


○自分で電話番号を調べて電話をかけない方は7.1%で、年齢階級別にみると85歳以上で割合が高くなっています。

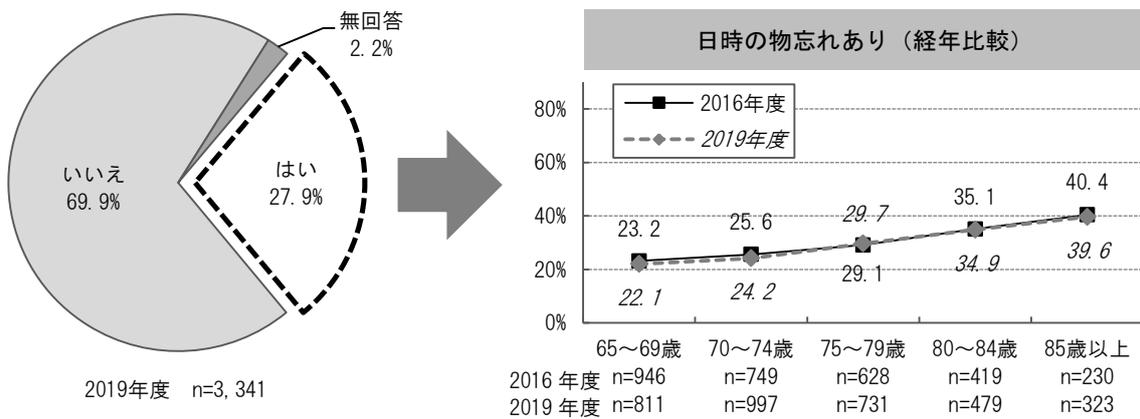
○今日が何月何日かわからない時がある方は27.9%で、年齢階級別にみると加齢とともに割合が高くなっています。

○周囲から物忘れを指摘される方は16.2%となっています。

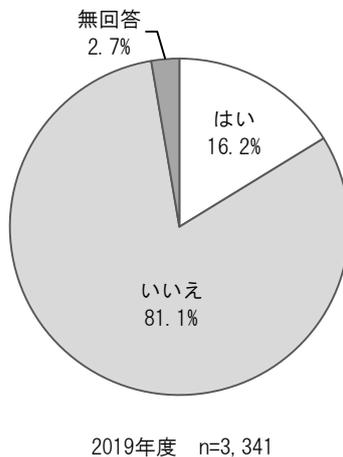
問4-(7) 自分で電話番号を調べて電話をかけるか



問4-(8) 今日が何月何日かわからない時があるか



問4-(19) 周囲から物忘れを指摘される



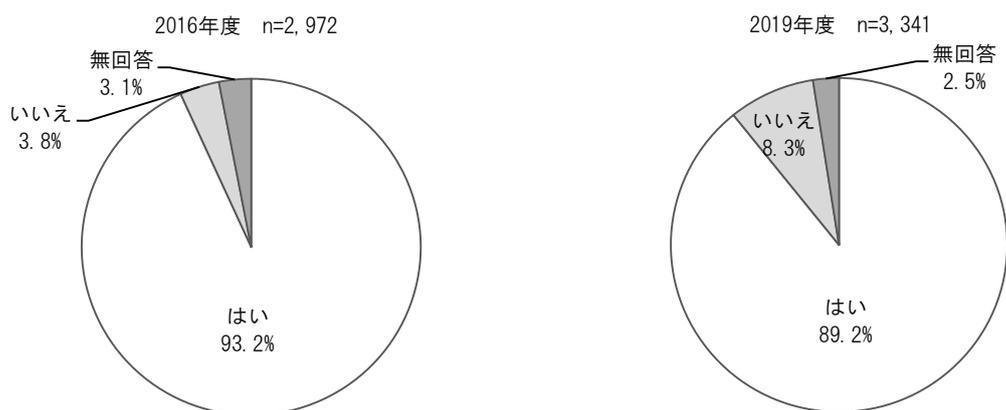
○5分前に自分が何をしていたか思い出せるかでは、8.3%の方が思い出せないと回答しています。

○前回調査と比較すると、思い出せない方は4.5%^{ポイント}高くなっています。

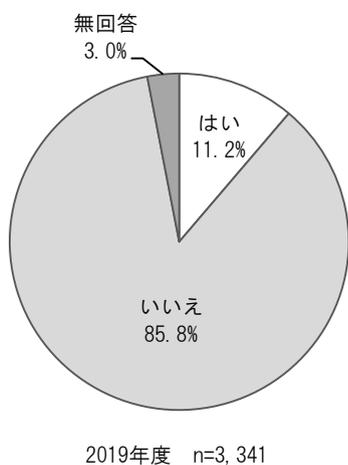
○自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状があると回答した方は11.2%となっています。

○認知症に関する相談窓口について25.8%の方が知っていると回答していますが、「知らない(いいえ)」は7割に及んでいます。

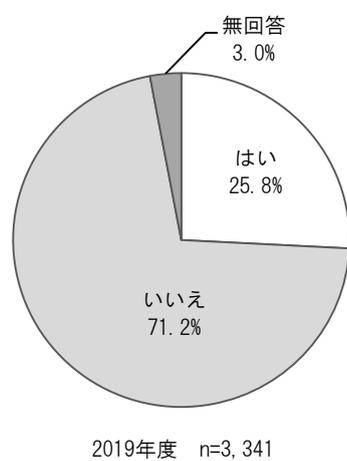
問4-(20) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか(経年比較)



問4-(21) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある



問4-(22) 認知症に関する相談窓口を知っているか



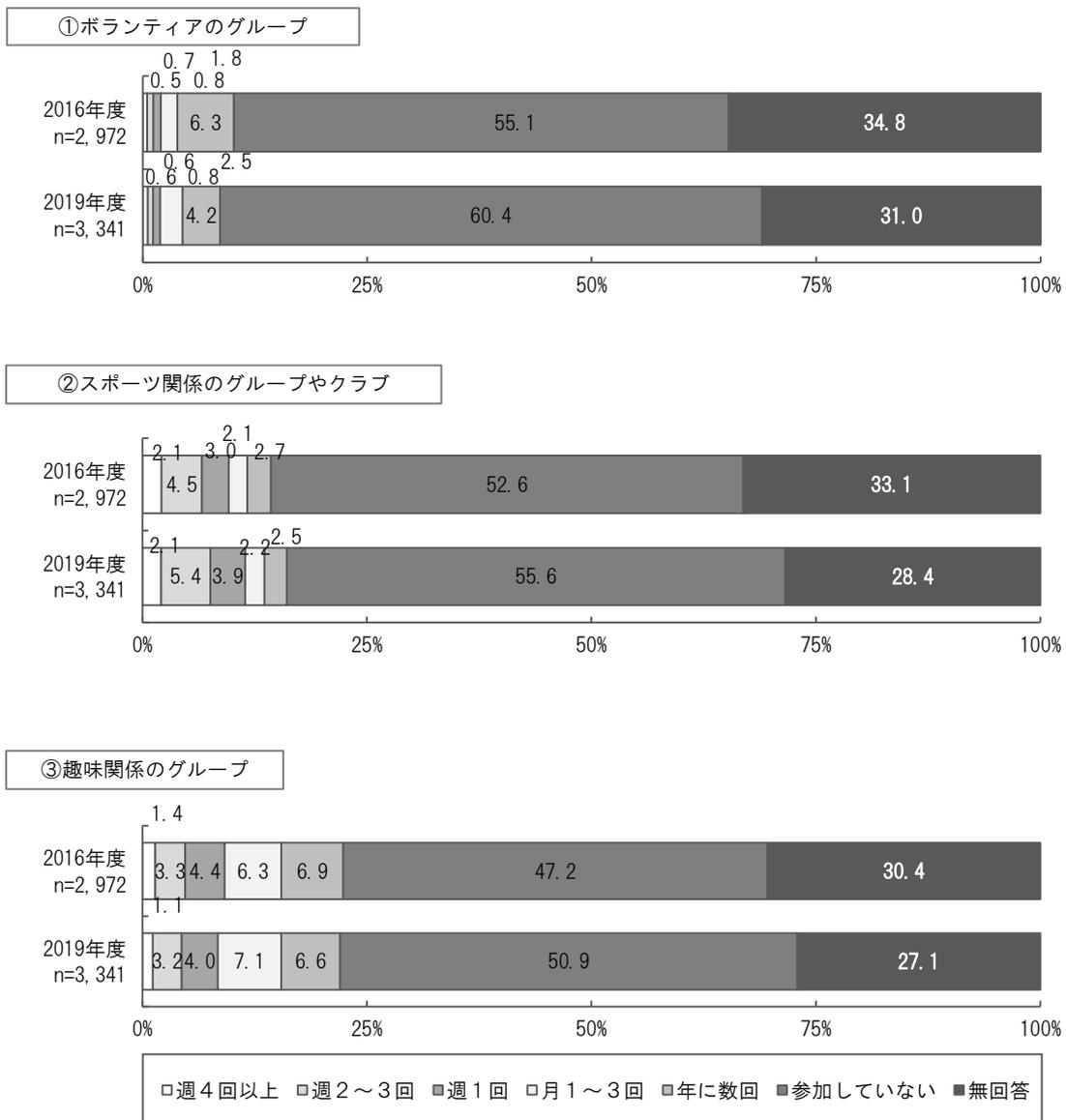
5 地域での活動について

(1) グループ活動等の状況

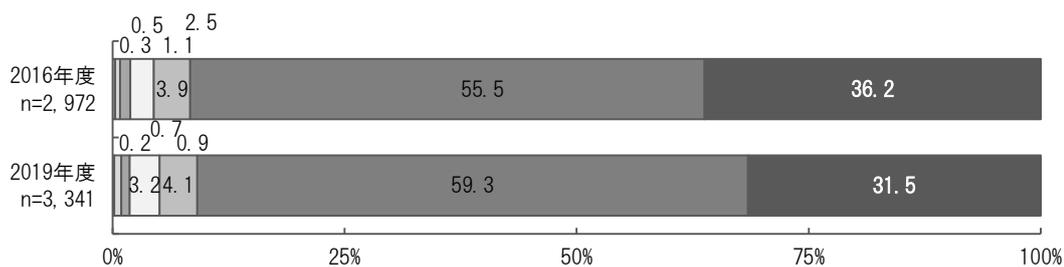
○通いの場（グループ活動）等への参加頻度をみると、週に1回以上の就労または通いの場等に参加している方は「⑧収入のある仕事」（17.1%）、「②スポーツ関係のグループやクラブ」（11.4%）、「③趣味関係のグループ」（8.3%）となっています。

○前回調査と比較すると、「⑧収入のある仕事」で2.1ポイント、「②スポーツ関係のグループやクラブ」で1.8ポイント、「⑦町内会・自治会」で0.2ポイント高くなっています。

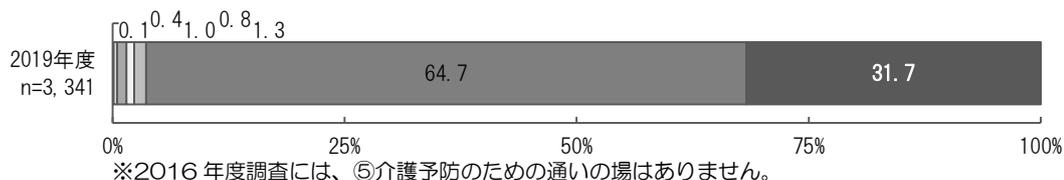
問5-(1) 通いの場等への参加頻度（経年比較）



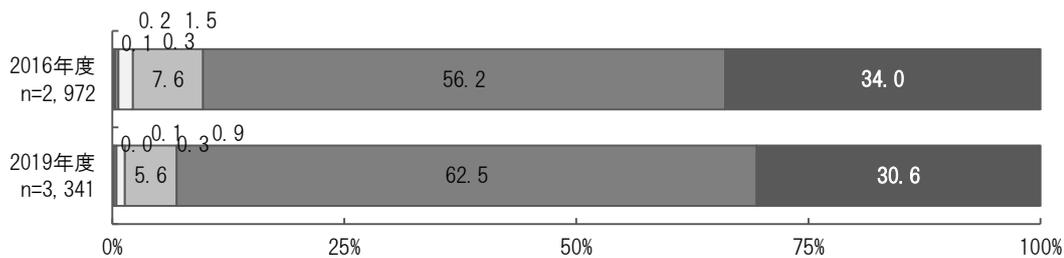
④学習・教養サークル



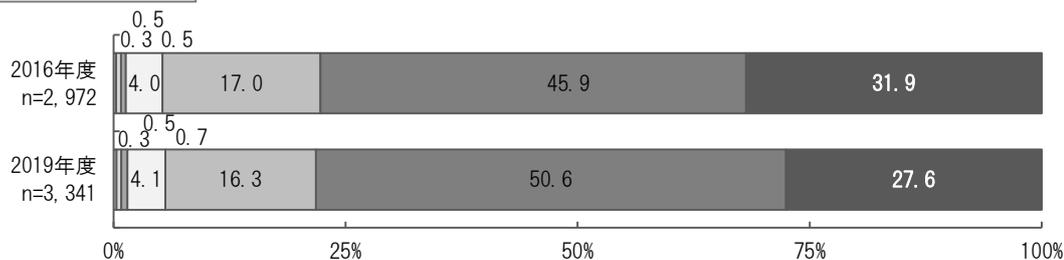
⑤介護予防のための通いの場（弘前市高齢者ふれあい居場所づくり事業など）



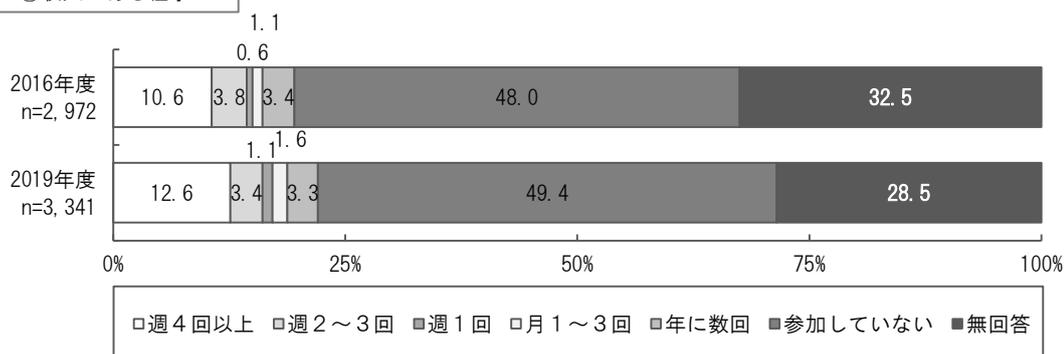
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事

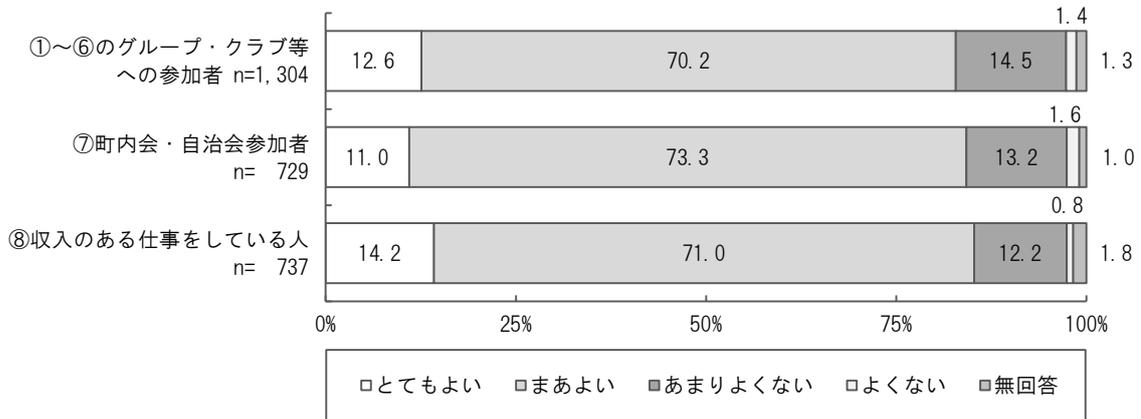


○グループ等への参加者の主観的健康感をみると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた82.8～85.2%の方が「よい」と回答しています。

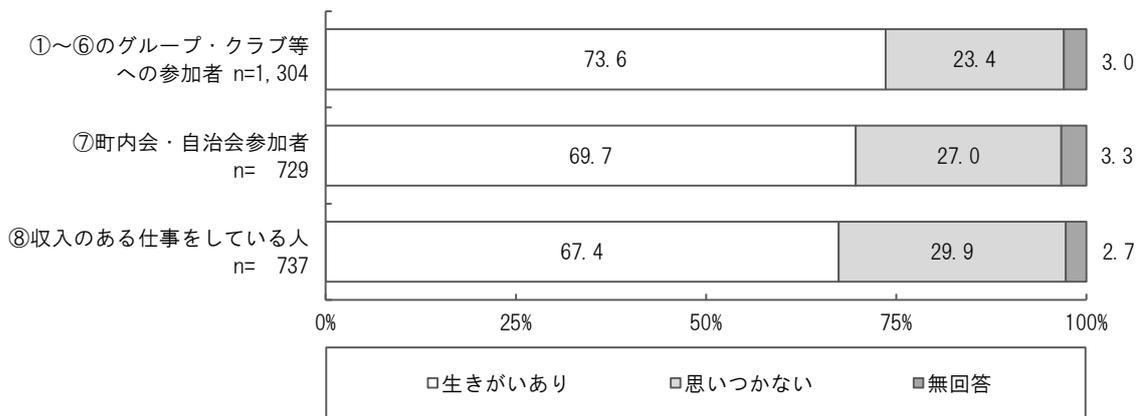
○グループ等への参加者で生きがいのある方は、67.4～73.6%となっています。

○グループ等への参加者で趣味のある方は、74.5～87.1%となっています。

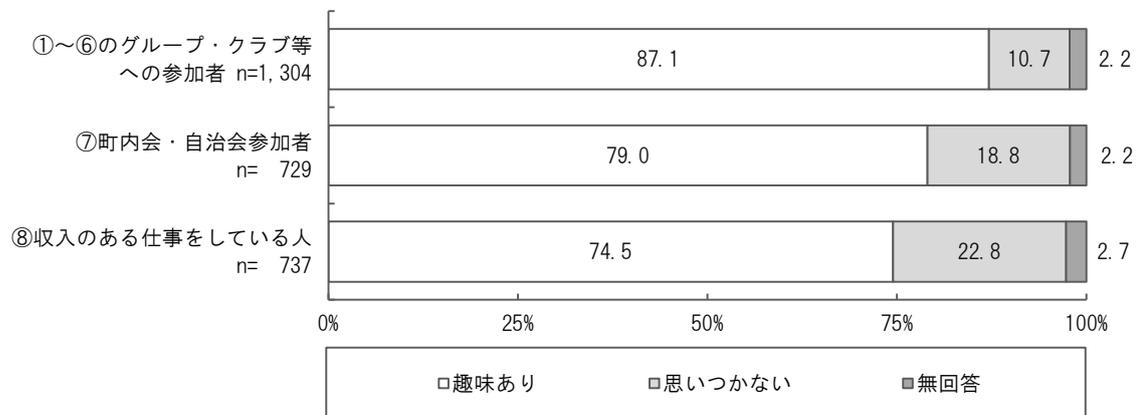
「問5-(1) 通いの場等への参加者」×「問7-(1) 主観的健康感」



「問5-(1) 通いの場等への参加者」×「問4-(18) 生きがいはあるか」



「問5-(1) 通いの場等への参加者」×「問4-(17) 趣味はあるか」



(2) 地域づくりに対する参加意向

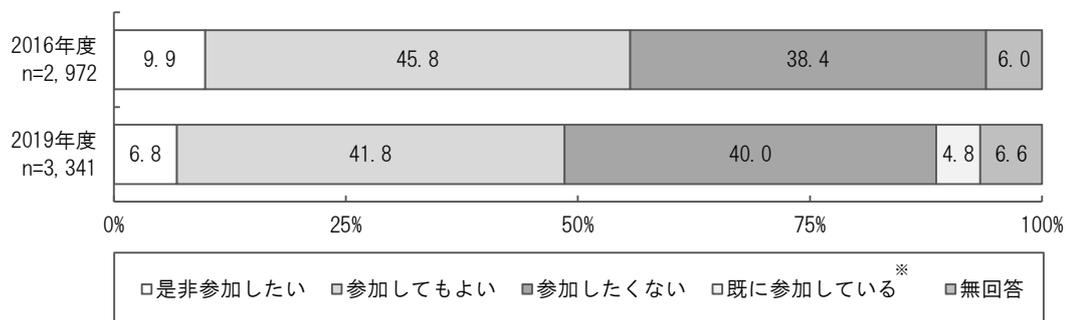
○参加者としてグループ活動等に、「是非参加したい」(6.8%)と「参加してもよい」(41.8%)を合わせた48.6%が参加を希望しています。

○前回調査と比較すると、参加希望者は7.1^{ポイント}低くなっています。

○企画・運営としてグループ活動等に、「是非参加したい」(2.5%)と「参加してもよい」(27.5%)を合わせた30.0%が参加を希望している一方、「参加したくない」が半数以上を占めています。

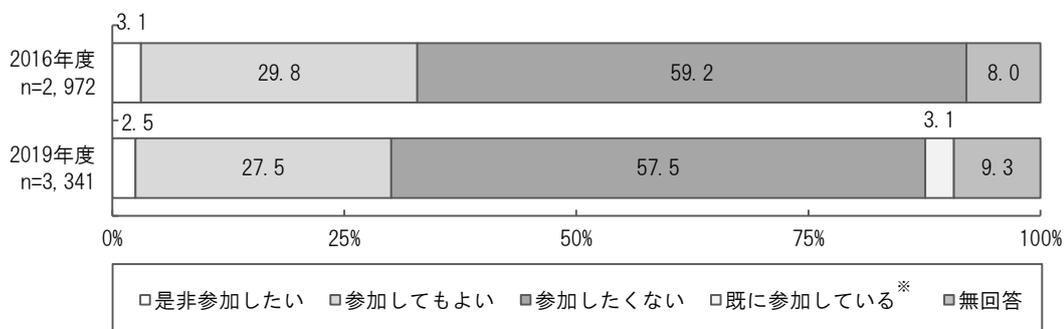
○前回調査と比較すると、企画・運営の参加希望者は2.9^{ポイント}低くなっています。

問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか（経年比較）



※2016年度の選択肢には『既に参加している』はありません。

問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか（経年比較）



※2016年度の選択肢には『既に参加している』はありません。

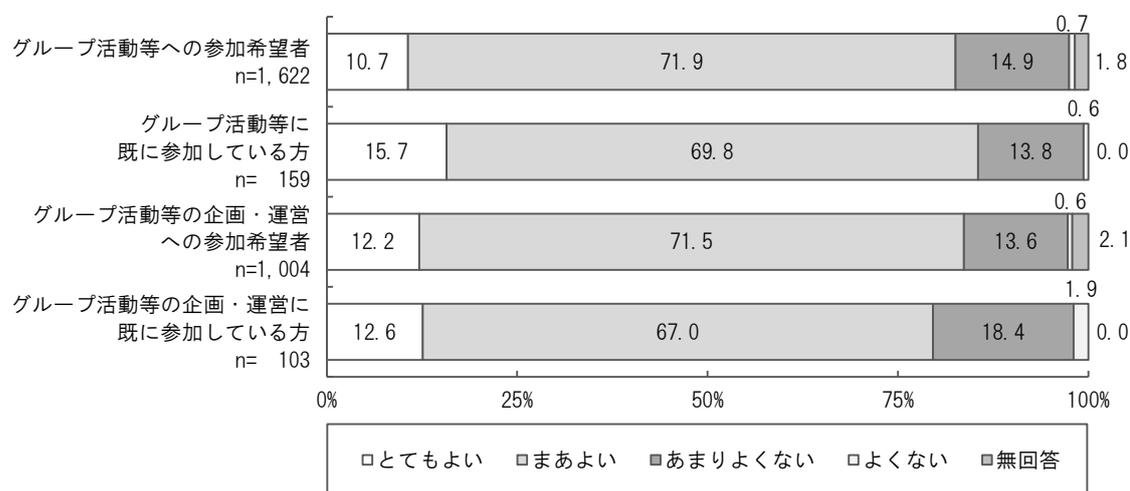
○グループ活動等への参加希望者と既参加者の主観的健康感をみると、参加希望者・既参加者ともに「まあよい」(71.9%・69.8%)が最も高く、「とてもよい」は後者が前者を5.0ポイント上回っています。

○グループ活動等の企画・運営への参加希望者と既参加者の主観的健康感では、参加希望者・既参加者ともに「まあよい」(71.5%・67.0%)が最も高く、「とてもよい」は後者が前者を0.4ポイント上回っています。

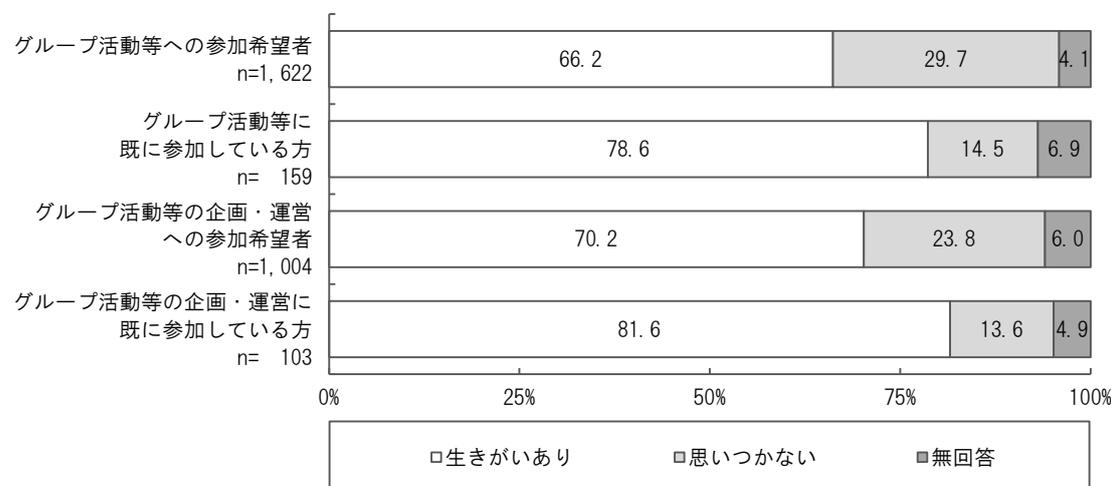
○グループ活動等への参加希望者と既参加者の生きがいを見ると、参加希望者・既参加者ともに「生きがいあり」(66.2%・78.6%)の割合が高く、後者が前者を12.4ポイント上回っています。

○グループ活動等の企画・運営への参加希望者と既参加者の生きがいで、参加希望者・既参加者ともに「生きがいあり」(70.2%・81.6%)の割合が高く、後者が前者を11.4ポイント上回っています。

「問5-(2)(3) 希望者・既参加者」×「問7-(1) 主観的健康感」



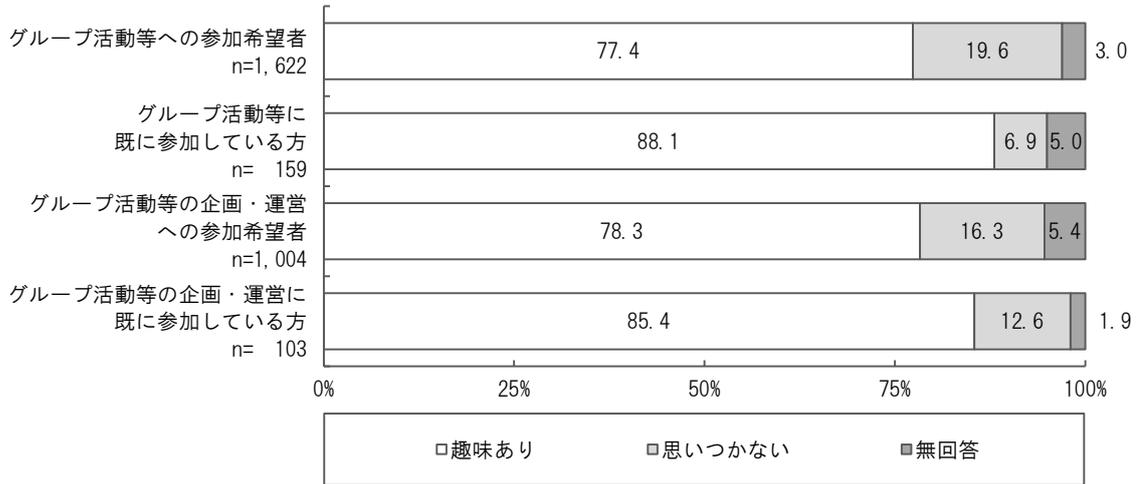
「問5-(2)(3) 希望者・既参加者」×「問4-(18) 生きがいはあるか」



○グループ活動等への参加希望者と既参加者の趣味をみると、参加希望者・既参加者ともに「趣味あり」(77.4%・88.1%)の割合が高く、後者が前者を10.7^{ポイント}上回っています。

○グループ活動等の企画・運営への参加希望者と既参加者の趣味では、参加希望者・既参加者ともに「趣味あり」(78.3%・85.4%)の割合が高く、後者が前者を7.1^{ポイント}上回っています。

「問5-(2)(3) 希望者・既参加者」×「問4-(17) 趣味はあるか」

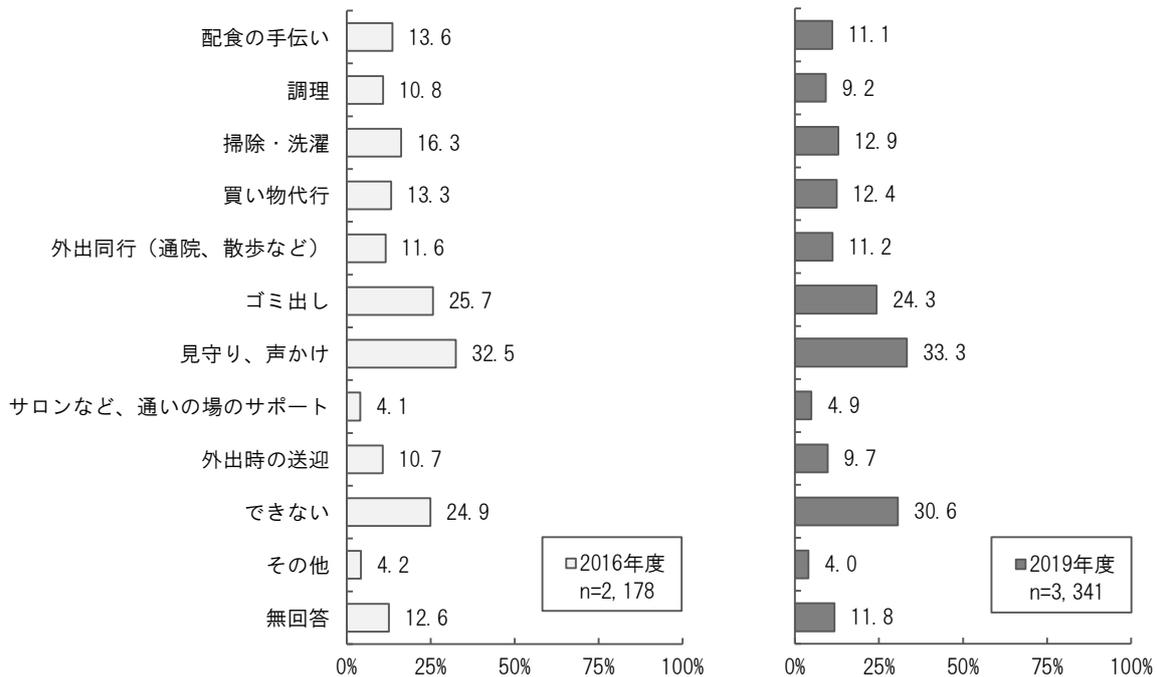


(3) 地域でできる支援と地域生活に必要なサービスや支援

○地域でできる支援をみると、「見守り・声かけ」(33.3%)が最も高く、次いで「ゴミ出し」(24.3%)、「掃除・洗濯」(12.9%)、「買い物代行」(12.4%)、「外出同行(通院、散歩など)」(11.2%)となっています。一方、「できない」は30.6%となっています。

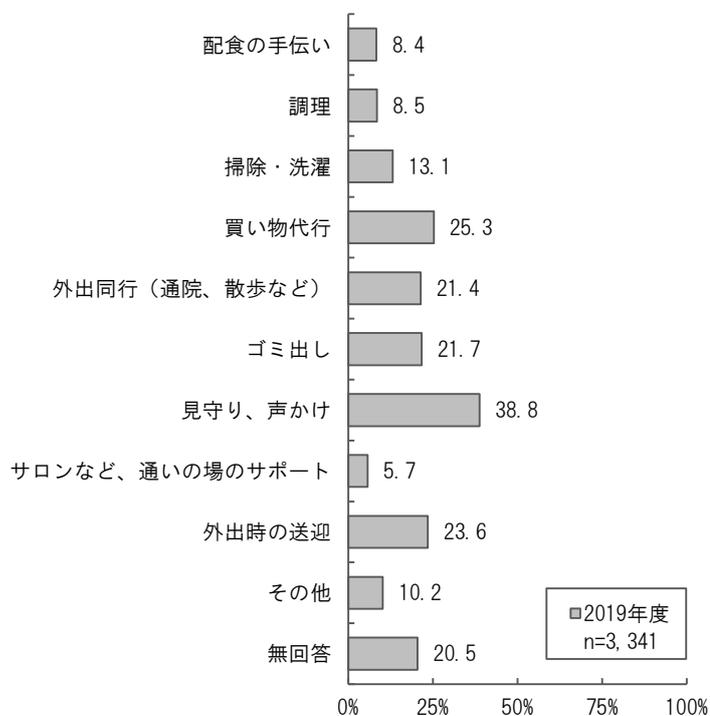
○前回調査と比較すると、「見守り・声かけ」「サロンなど、通いの場のサポート」で各0.8^{ポイント}高くなっています。一方、「できない」は5.7^{ポイント}高くなっています。

問5-(4) 地域でできる支援 (経年比較)



○地域で暮らし続けるために必要なサービスや支援では、「見守り・声かけ」(38.8%)が最も高く、次いで「買い物代行」(25.3%)、「外出時の送迎」(23.6%)、「ゴミ出し」(21.7%)、「外出同行(通院、散歩など)」(21.4%)、「掃除・洗濯」(13.1%)、「調理」(8.5%)、「配食の手伝い」(8.4%)の順となっています。

問5-(5) 地域で暮らし続けるために必要なサービスや支援



6 たすけあいについて

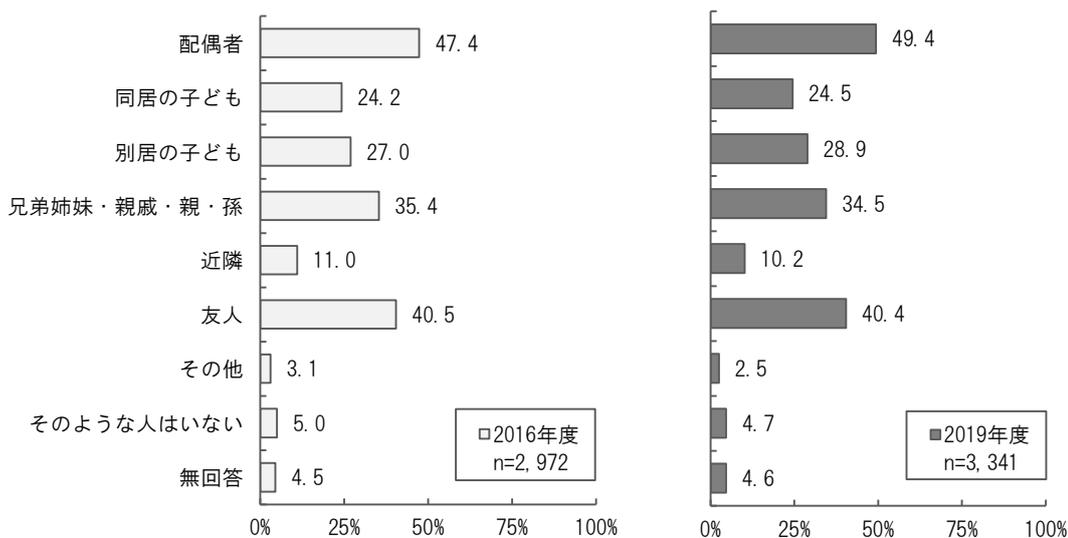
(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」（49.4％）が最も高く、次いで「友人」（40.4％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（34.5％）、「別居の子ども」（28.9％）となっています。一方、「そのような人はいない」は4.7％となっています。

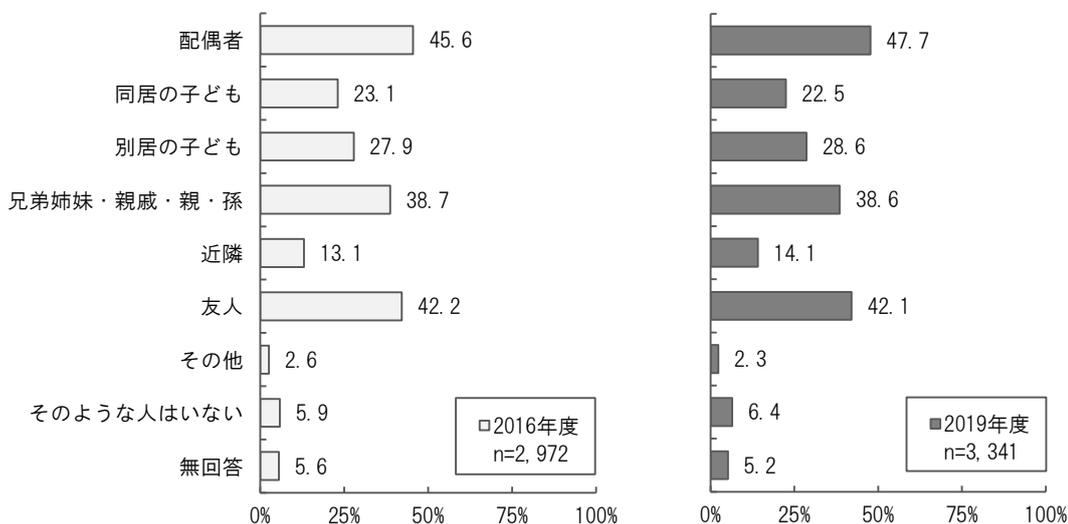
○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（47.7％）が最も高く、次いで「友人」（42.1％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（38.6％）、「別居の子ども」（28.6％）となっています。一方、「そのような人はいない」は6.4％となっています。

○前回調査と比較すると、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は「配偶者」で2.0^{ポイント}、「別居の子ども」で1.9^{ポイント}、「同居の子ども」で0.3^{ポイント}高く、「そのような人はいない」は0.3^{ポイント}低くなっています。また、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は「配偶者」で2.1^{ポイント}、「近隣」で1.0^{ポイント}、「別居の子ども」で0.7^{ポイント}、「そのような人はいない」は0.5^{ポイント}高くなっています。

問6-(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（経年比較）



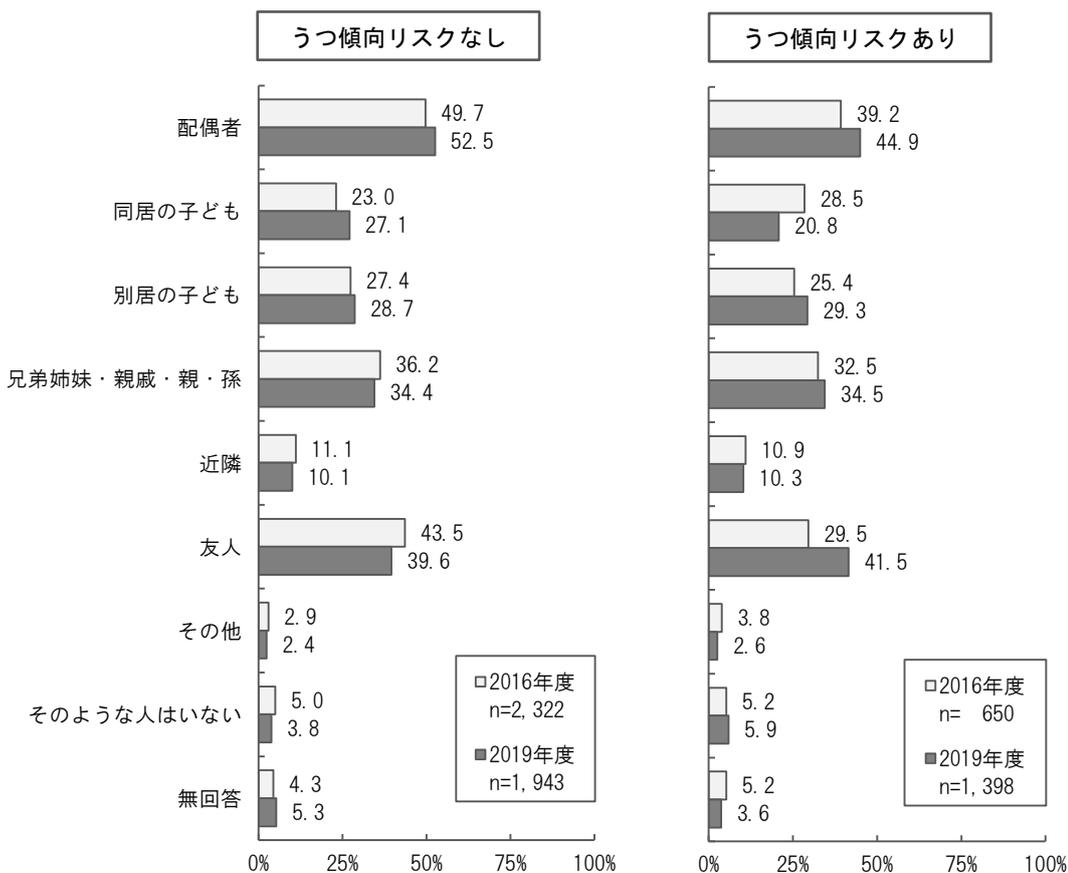
問6-(2) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（経年比較）



○心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人をうつ傾向リスクの有無別にみると、リスクなし・リスクありともに「配偶者」(52.5%・44.9%)が最も高く、次いで「友人」(39.6%・41.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(34.4%・34.5%)、「別居の子ども」(28.7%・29.3%)となっています。一方、「そのような人はいない」は前者が3.8%、後者が5.9%となり、後者が2.1ポイント上回っています。

○うつ傾向リスクありを前回調査と比較すると、「友人」で12.0ポイント、「配偶者」で5.7ポイント、「別居の子ども」で3.9ポイント、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で2.0ポイント高く、「同居の子ども」で7.7ポイント低くなっています。一方、「そのような人はいない」は0.7ポイント高くなっています。

「問6-(1) 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人」×「うつ傾向リスクの有無」(経年比較)

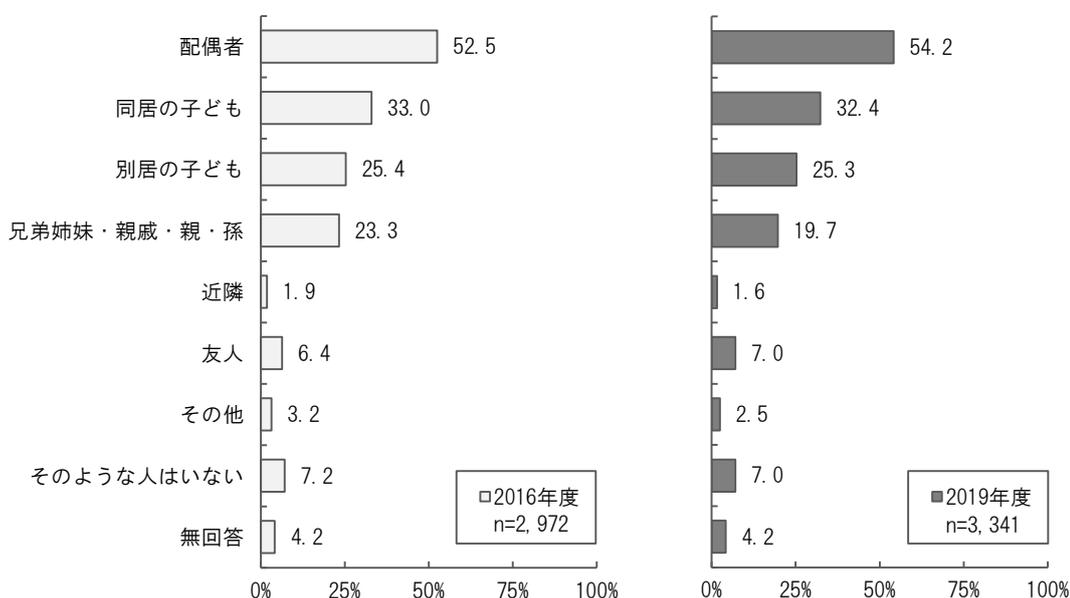


○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(54.2%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(32.4%)、「別居の子ども」(25.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(19.7%)となっています。

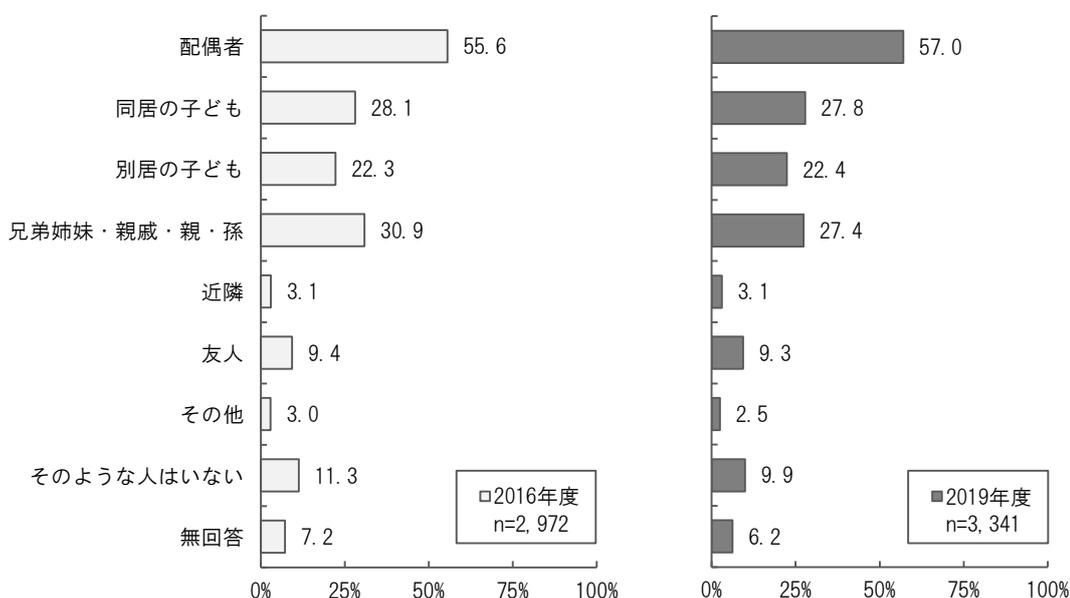
○看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(57.0%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(27.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(27.4%)、「別居の子ども」(22.4%)となっています。

○前回調査と比較すると、看病や世話をしてくれる人は「配偶者」で1.7ポイント高く、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で3.6ポイント、「そのような人はいない」で0.2ポイント低く、看病や世話をしてあげる人では「配偶者」で1.4ポイント高く、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」で3.5ポイント、「そのような人はいない」で1.4ポイント低くなっています。

問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(経年比較)



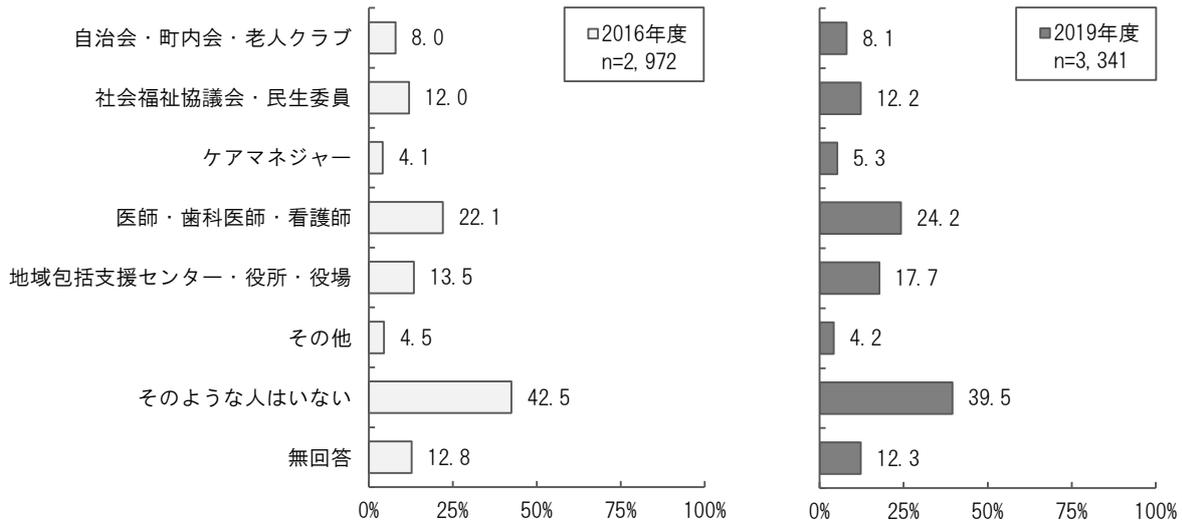
問6-(4) 看病や世話をしてあげる人(経年比較)



○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」(24.2%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(17.7%)、「社会福祉協議会・民生委員」(12.2%)、「自治会・町内会・老人クラブ」(8.1%)となっています。また、「そのような人はいない」は39.5%となっています。

○前回調査と比較すると、「地域包括支援センター・役所・役場」で4.2ポイント、「医師・歯科医師・看護師」で2.1ポイント、「ケアマネジャー」で1.2ポイント高くなっています。また、「そのような人はいない」は3.0ポイント低くなっています。

問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手（経年比較）

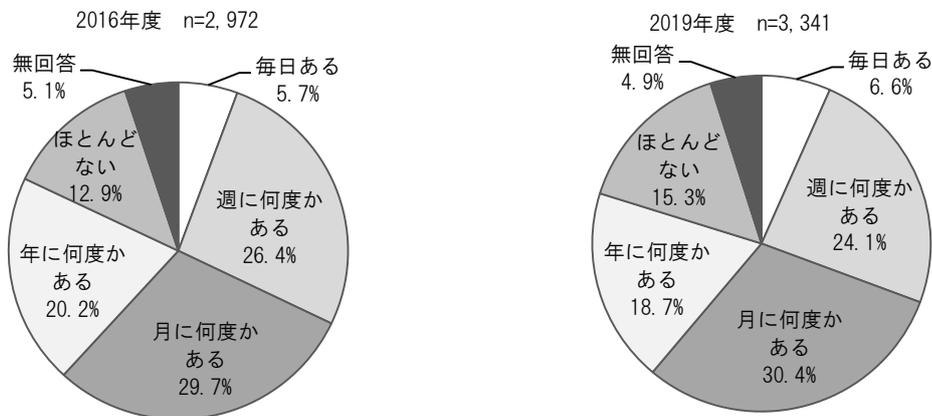


(2) 友人・知人との交流状況

○友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」(30.4%)が最も高く、次いで「週に何度かある」(24.1%)となっています。

○前回調査と比較すると、「ほとんどない」で2.4ポイント、「毎日ある」で0.9ポイント、「月に何度かある」で0.7ポイント高くなっています。

問6-(6) 友人・知人と会う頻度（経年比較）



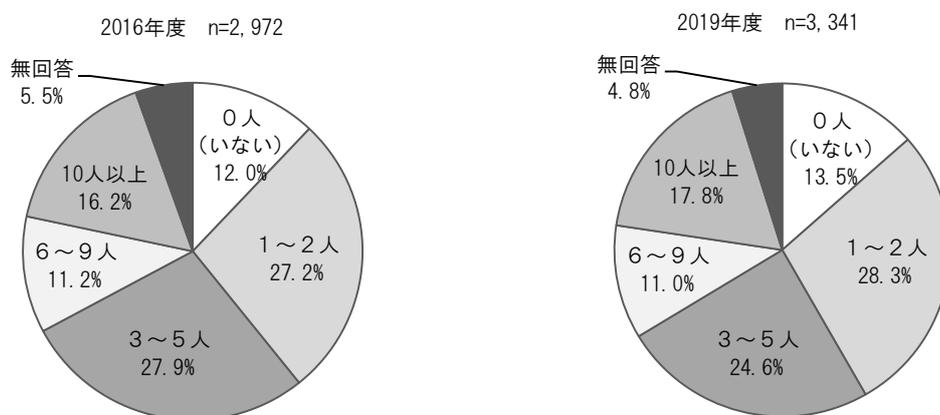
○1か月に会った友人・知人の人数をみると、「1～2人」(28.3%)が最も高く、次いで「3～5人」(24.6%)となっています。

○前回調査と比較すると、「10人以上」で1.6ポイント、「0人(いない)」で1.5ポイント、「1～2人」で1.1ポイント高くなっています。

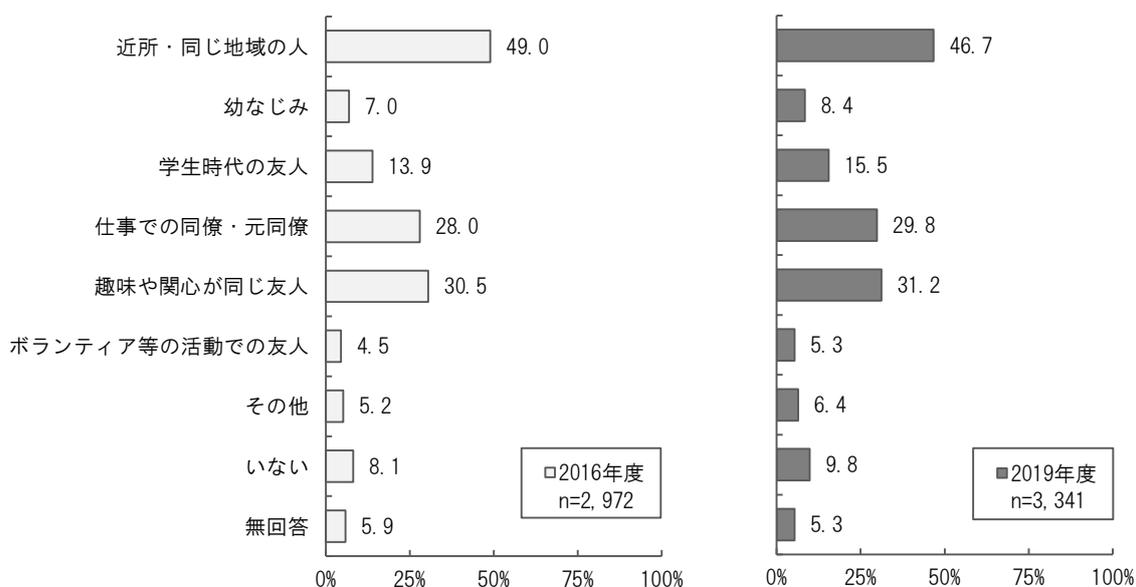
○よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」(46.7%)が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(31.2%)、「仕事での同僚・元同僚」(29.8%)、「学生時代の友人」(15.5%)となっています。

○前回調査と比較すると、「仕事での同僚・元同僚」で1.8ポイント、「学生時代の友人」で1.6ポイント、「幼なじみ」で1.4ポイント高くなっています。

問6-(7) 何人の友人・知人と会ったか<最近1か月間>(経年比較)



問6-(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か(経年比較)



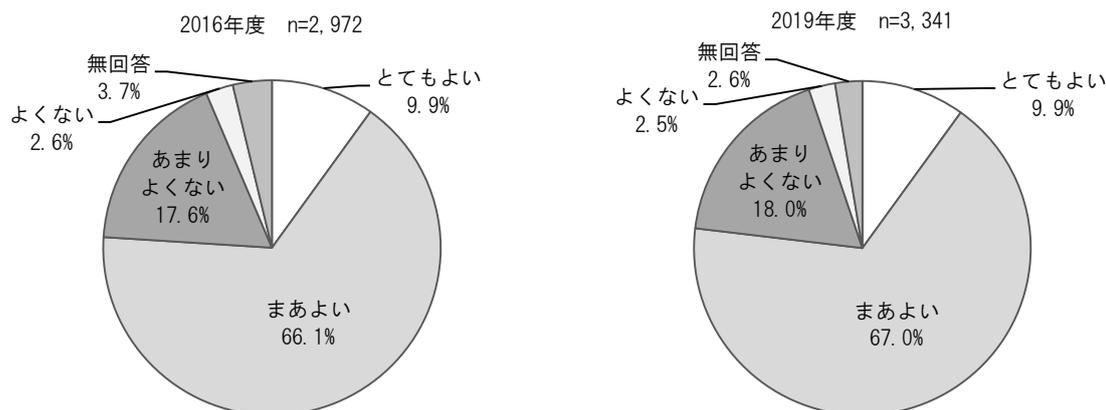
7 健康について

(1) 健康状態

○現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(67.0%)が最も高く、「とてもよい」(9.9%)と合わせた76.9%が健康と感じています。

○前回調査と比較すると、健康と感じている方は0.9^{ポイント}高くなっています。

問7-(1) 現在の主観的健康感（経年比較）

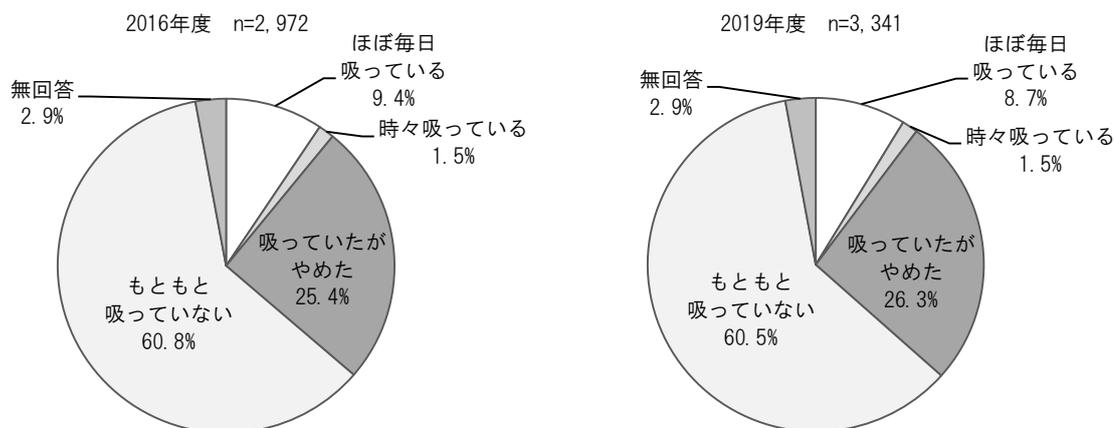


(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

○喫煙の状況をみると、「ほぼ毎日吸っている」(8.7%)と「時々吸っている」(1.5%)を合わせた10.2%が喫煙者となっています。

○前回調査と比較すると、喫煙者は0.7^{ポイント}低くなっています。

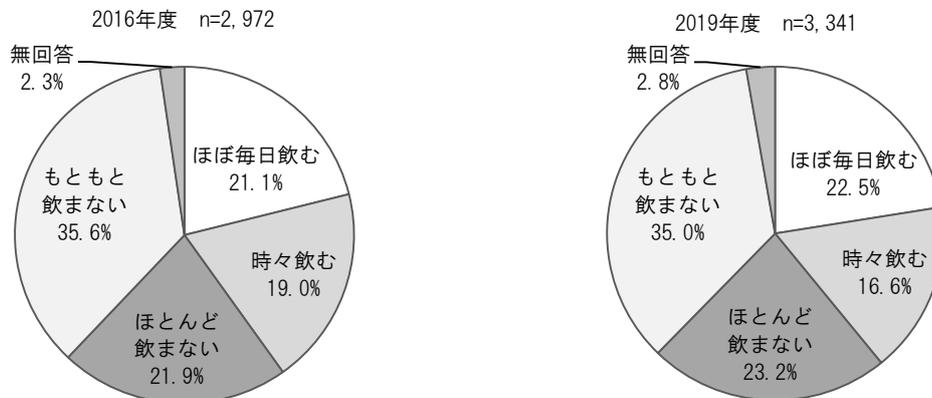
問7-(5) 喫煙の状況（経年比較）



○飲酒の状況を見ると、「ほぼ毎日飲む」(22.5%)と「時々飲む」(16.6%)を合わせた39.1%が飲酒者となっています。

○前回調査と比較すると、飲酒者は1.0^{ポイント}低くなっています。

問7-(7) 飲酒の状況(経年比較)

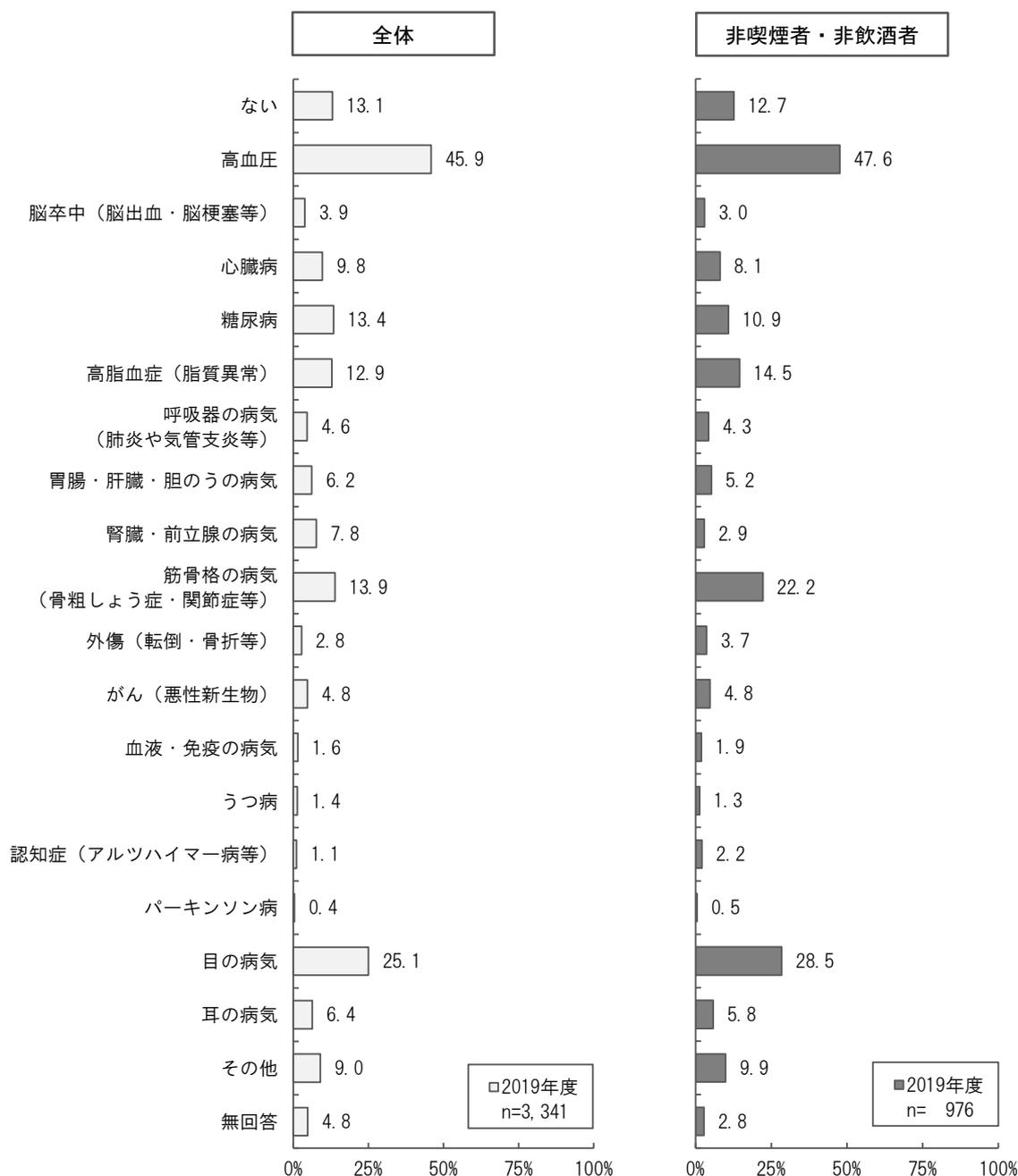


○現在治療中、または後遺症のある病気をみると、全体では「高血圧」(45.9%) が最も高く、次いで「目の病気」(25.1%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(13.9%)、「糖尿病」(13.4%)、「高脂血症(脂質異常)」(12.9%)、「心臓病」(9.8%) となっています。

○非喫煙者・非飲酒者の現在治療中、または後遺症のある病気をみると、「高血圧」(47.6%) が最も高く、次いで「目の病気」(28.5%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(22.2%)、「高脂血症(脂質異常)」(14.5%) となっています。

○また、「ない」と回答した方は、全体では13.1%、非喫煙者・非飲酒者では12.7%となっています。

問7-(6) 現在治療中、または後遺症のある病気

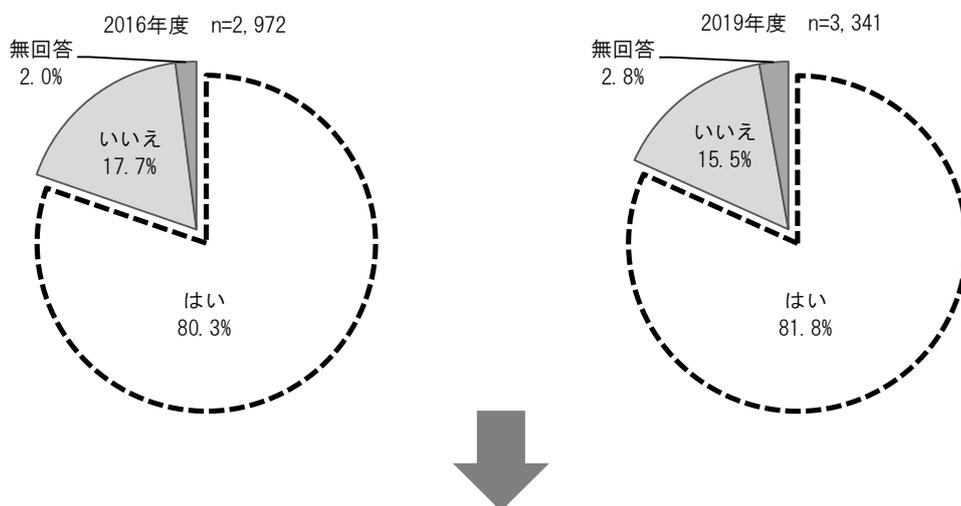


(3) 通院の状況

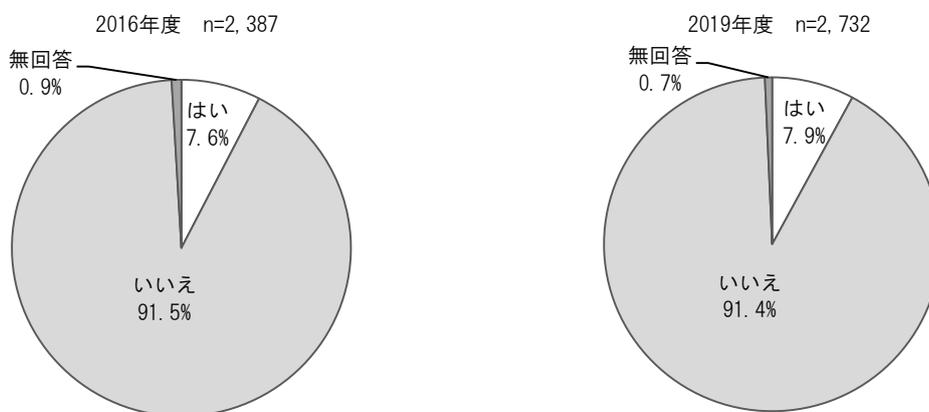
○通院している方は81.8%となり、前回調査と比較すると1.5ポイント高くなっています。

○通院している方のうち、通院に介助が必要な方は7.9%となり、前回調査と比較すると0.3ポイント高くなっています。

問7-(8) 通院しているか (経年比較)



問7-(8).① 通院に介助が必要なか (経年比較)



8 生活状況の変化に伴う暮らしの場について

○介護が必要になるなど、生活状況が変わった際に暮らしたい場所をみると、「要介護になっても自宅で暮らしたい」(36.0%)が最も高く、次いで「施設(特別養護老人ホーム等)」(14.3%)、「サービス付き高齢者住宅」(9.9%)、「有料老人ホーム」(6.9%)となっています。

問8-(1) 介護など、生活状況の変化による暮らしたい場所

